預言者伝（スィーラ）

第 19 巻

# ムウタの戦い

三人の指揮官、一本の旗、そしてアッラーの剣




HJ CHE ALIM HJ CHE HARON
AK (KELANTAN)
quranscience.my



© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

## 預言者伝（スィーラ）

### 第 19 巻

# ムウタの戦い

三人の指揮官、一本の旗、そしてアッラーの剣 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

مِّنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ رِجَالٌ صَدَقُوا۟ مَا عَٰهَدُوا۟ ٱللَّهَ عَلَيْهِ ۖ فَمِنْهُم مَّن قَضَىٰ نَحْبَهُۥ وَمِنْهُم مَّن يَنتَظِرُ ۖ وَمَا بَدَّلُوا۟ تَبْدِيلًا

「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し、また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。」

部族連合章 33:23

**HJ CHE ALIM HJ CHE HARON**

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

# 謝辞

信者たちの中から殉教者を選び、かれらを御許で糧を与えられて生きる者とされたアッラーに讃えあれ。わたしたちの主君、預言者ムハンマド ﷺ に祝福と平安あれ。使徒は愛の涙をもって教友たちを悼まれました。またその家族と教友たちにも祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

**ザハラ・モハマド・ラティフ**；

愛する子どもたち、

**ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ**；

そして義理の子どもたち、

**ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワン**に捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 19 巻は、ムウタの戦いを語ります。同時に任命された三人の指揮官、手から手へと渡った旗、二つの翼を持つジャアファル、そして「アッラーの剣の一つ」ハーリド・ブン・アル＝ワリードの物語です。この知識が「役に立つ知識」となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間や動物は描かれていません。描かれているのは、**死海の東に広がる風の吹く高原**の**夜明け**の風景で、石灰岩の間には野生の**赤いアネモネの花**が咲いています。一本の**古い石の道**が遠くの丘へと続き、**厚い雲が切れはじめ**、金色の光が差し込んでいます。

この高原は、今日のヨルダンのカラク近郊にあるムウタの地を思い起こさせます。三千人の教友が、はるかに大きな軍勢と向き合った場所です。赤い花は、殉教した人びと — ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハ、そして他の教友たち — の血を象徴し、雲を貫く光はアッラーの約束を思い起こさせます。「いや、かれらは主の御許で生きており、糧を与えられている」（イムラーン家章 3:169）。古い道は、ムスリム軍がたどったシャームへの道であり、のちにハーリドが軍を無事に連れ帰った道でもあります。

**下部の紺色の帯**は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# 目次

**ムウタの戦い** — はじめに

**1. カダーのウムラの後** — スィーラ書；図

**2. 一度の任命で三人の指揮官** — 『サヒーフ・ブハーリー』4261

**3. ザイド・ブン・ハーリサ：指揮にふさわしい人** — 『サヒーフ・ブハーリー』3730；部族連合章 33:37

**4. ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ：貧しい人びとの友** — 『サヒーフ・ブハーリー』3708

**5. アブドゥッラー・ブン・ラワーハ：出発前の涙** — マルヤム章 19:71；スィーラ書

**6. シャームの地への道のり** — 図；スィーラ書

**7. マアーンでの協議** — 図；スィーラ書

**8. 「少数の集団が……」** — 雌牛章 2:249；戦利品章 8:45–46

**9. ジャアファル：前面に受けた五十の傷** — 『サヒーフ・ブハーリー』4260

**10. 二つの翼を持つ者** — 『サヒーフ・ブハーリー』4264

**11. イブン・ラワーハ：「わが魂よ……」** — スィーラ書

**12. アッラーの剣の一つ** — 『サヒーフ・ブハーリー』1246；図

**13. 折れた九本の剣** — 『サヒーフ・ブハーリー』4265

**14. 知らせより先の知らせ** — 『サヒーフ・ブハーリー』4262

**15. マダディーの男と指揮官への服従** — 『サヒーフ・ムスリム』1753；アブー・ダーウード 2719

**16. 涙を流されたアッラーの使徒ﷺ** — 『サヒーフ・ブハーリー』4263；雌牛章 2:155–157

**17. ジャアファルの家族のための食事** — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；アブー・ダーウード 4192

**18. 「いや、かれらは生きている」** — イムラーン家章 3:169–171；『サヒーフ・ムスリム』1887

**19. 殉教者たちの願い** — 『サヒーフ・ブハーリー』2817；部族連合章 33:23

**20. 勝利か、撤退か** — スィーラ書；表

**21. ウサーマ：受け継がれた旗** — 『サヒーフ・ブハーリー』3730、4469

**22. 今日のムウタ** — 歴史

**23. ムウタの戦いの物語の出典** — 表

**24. ザート・アッ＝サラースィルの遠征：ムウタの後** — 『サヒーフ・ブハーリー』4358；『スナン・アビー・ダーウード』334

**25. ハバトの部隊と海辺の大魚** — 『サヒーフ・ブハーリー』4361、4362；食卓章 5:96

**26. ムウタの戦いの人物たち** — 表

**27. ムウタとその後の遠征から導かれる法規定** — 表；戦利品章 8:15–16

**28. 年表：ムウタからマッカ征服へ** — 表

**29. ムウタの戦いに関するよくある質問** — 12 の質問

**30. 教訓と結び**

**参考文献**

**支援と寄付**

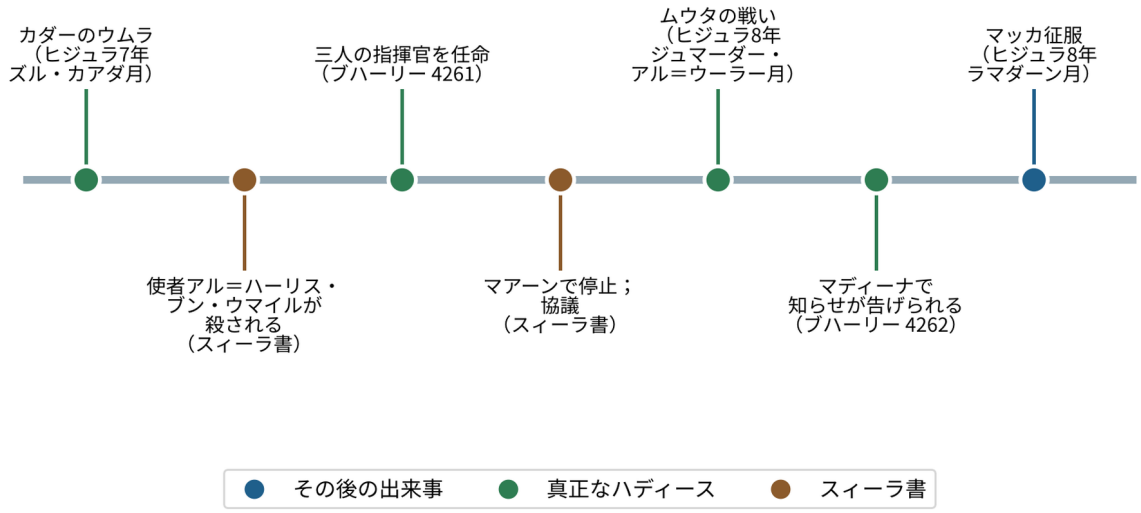
色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

# ムウタの戦い

『預言者伝（スィーラ）』第 18 巻は、カダーのウムラを語りました。ムスリムたちは安全にマッカに入り、ラマルをしながらタワーフを行い、安らかな心でマディーナに帰りました。しかし、その安らぎは長くは続きませんでした。数か月後の**ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月**、**三千人**の部隊がマディーナを出て北へ―東ローマ帝国（ビザンツ）の領土であるシャームの地へ―向かったのです。

本巻は**ムウタの戦い**を語ります。ムスリム軍が当時の世界の大国と初めて向き合った戦いです。アッラーの使徒 ﷺ は**三人の指揮官を一度に**任命されました。三人は一人また一人と殉教し、やがて旗は、入信してまだ数か月の**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**の手に渡り、アッラーはかれの手によって軍を救われました。一方マディーナでは、アッラーの使徒 ﷺ が、**知らせが届く前に**、目に涙を浮かべながら戦場の出来事を語られたのです。

**ムウタの戦いの年表**




戦いはヒジュラ8年ジュマーダー・アル＝ウーラー月（西暦629年9月ごろ）、マッカ征服の四か月前に起きた。

図 1：ムウタの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報 — 敵軍の人数、演説や詩など — は、その多くが連続した伝承経路なしに伝えられているため、茶色の「スィーラの注」の枠に入れている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## カダーのウムラの後

フダイビーヤの和約の後、アッラーの使徒 ﷺ は、第 17 巻で語ったように、アラビア半島周辺の王や支配者たちに宣教の書簡を送られました。使者を敬意をもって迎えた者もいれば、拒んだ者もいました。しかし使者を殺すことは、当時のすべての民族の慣習において**きわめて重大な違反**でした。

**スィーラの注：殺された使者**

イブン・サアドとアル＝ワーキディーによれば、アッラーの使徒 ﷺ は**アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディー**に書簡を託してブスラーの支配者のもとへ遣わされました。かれはムウタでローマに従うガッサーンのアラブ人官吏**シュラフビール・ブン・アムル・アル＝ガッサーニー**に捕らえられ、殺されました。かれはアッラーの使徒 ﷺ の使者の中で殺された唯一の人であり、この出来事がムウタへの派兵の主な原因とされています。

この話は**スィーラ書の情報**であり、使者の名を詳しく伝える真正なハディースはありません。しかし現代の歴史家も、アッラーの使徒 ﷺ の使者の一人がシュラフビールの命令で殺されたことを記録しています。

**参照：**

イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

Wikipedia「Shurahbil ibn Amr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Shurahbil_ibn_Amr

教訓：イスラームは**使者を尊重し**、その権利が侵されたときには正義を求めます。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も、たとえ使者が心を傷つける言葉を携えてきても、決して使者を殺されませんでした。

## 一度の任命で三人の指揮官

アッラーの使徒 ﷺ は一つの部隊を整え、**それまでになかったこと**をされました。指揮官を一人ではなく、順番に三人任命されたのです。その戦いに加わったアブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう伝えています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4261 番**

أَخْبَرَنَا أَحْمَدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ، حَدَّثَنَا مُغِيرَةُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ أَمَّرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي غَزْوَةِ مُوتَةَ زَيْدَ بْنَ حَارِثَةَ، فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِنْ قُتِلَ زَيْدٌ جَعْفَرٌ، وَإِنْ قُتِلَ جَعْفَرٌ فَعَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ. قَالَ عَبْدُ اللَّهِ كُنْتُ فِيهِمْ فِي تِلْكَ الْغَزْوَةِ فَالْتَمَسْنَا جَعْفَرَ بْنَ أَبِي طَالِبٍ، فَوَجَدْنَاهُ فِي الْقَتْلَى، وَوَجَدْنَا مَا فِي جَسَدِهِ بِضْعًا وَتِسْعِينَ مِنْ طَعْنَةٍ وَرَمْيَةٍ.

**訳：**

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はムウタの戦いでザイド・ブン・ハーリサを指揮官に任じ、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**もしザイドが殺されたら、ジャアファル。もしジャアファルが殺されたら、アブドゥッラー・ブン・ラワーハ。**」アブドゥッラー（・ブン・ウマル）は言った。「わたしはその戦いでかれらと共にいた。わたしたちはジャアファル・ブン・アビー・ターリブを探し、殺された者たちの中にかれを見つけた。**そしてかれの体に、九十を超える槍と矢の傷跡を見つけた。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・アビー・バクル ← アル＝ムギーラ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブドゥッラー・ブン・サイード ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4261 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4261

## このハディースの教訓

この交代制の任命は**周到な計画**を示しています。戦場の最中に指揮官を失った部隊は混乱しかねませんが、順番が明確であれば、兵士一人ひとりが誰に従うべきかを知っています。またこれは、アッラーの使徒 ﷺ が**激しい戦い**を予想しておられたことも示しています。

スィーラの学者たちは、教友の中にはこの任命を三人が皆殉教するという**暗示**と理解した者がいたと述べています。そして実際にそうなりました。イブン・ウマル自身、九十を超える傷を負ったジャアファルの遺体を目にしました。このハディースはまた、**指導者は条件付きで後継者を定めることができる** — 「もし某が殺されたら、某」 — という法学上の根拠にもなっています。

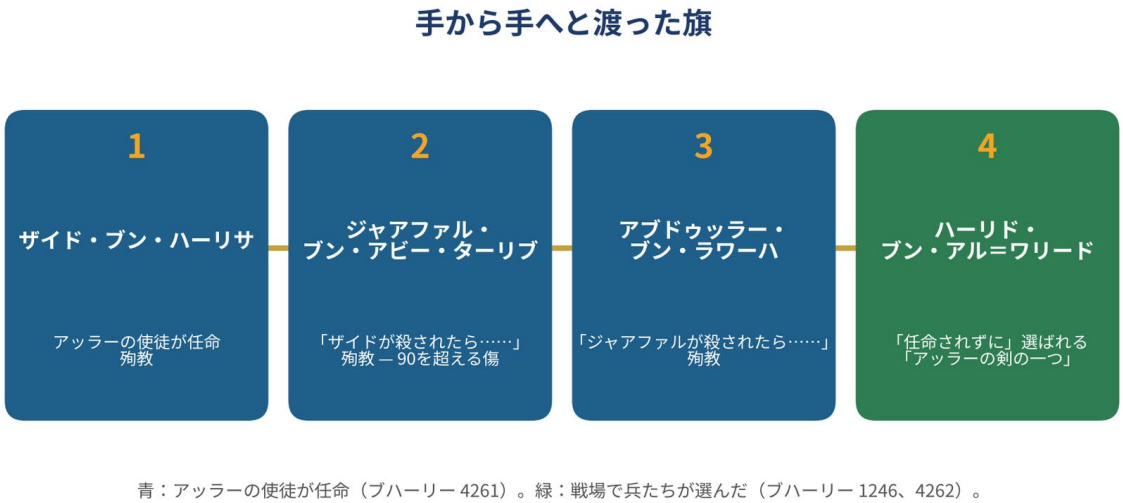



図 2：ムウタで手から手へと渡った旗。

# ザイド・ブン・ハーリサ：指揮にふさわしい人

最初の指揮官は**ザイド・ブン・ハーリサ** رضى الله عنه でした。ハディージャがアッラーの使徒 ﷺ に贈ったかつての奴隷で、自分の家族のもとに帰るよりも使徒のそばに留まることを選んだ人です。かれは**クルアーンの中で名前がはっきりと挙げられている**唯一の教友です：

「**ザイドがかの女（妻）との関係を絶ったとき……**」（部族連合章 33:37） — 『イブン・カスィール注釈』33:37。

クライシュやアンサールの有力者を含む軍勢の指揮官に、かつての奴隷を任命したことは、イスラームにおける**平等についての大きな教訓**です。人の価値は家柄ではなく、敬虔さと能力で測られます。のちにその息子ウサーマの指揮権に異議を唱える人びとが現れたとき、アッラーの使徒 ﷺ は父と子の二人を擁護されました：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3730 番**

حَدَّثَنَا خَالِدُ بْنُ مَخْلَدٍ، حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ، قَالَ حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ دِينَارٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ بَعَثَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَعْثًا، وَأَمَّرَ عَلَيْهِمْ أُسَامَةَ بْنَ زَيْدٍ، فَطَعَنَ بَعْضُ النَّاسِ فِي إِمَارَتِهِ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنْ تَطْعُنُوا فِي إِمَارَتِهِ فَقَدْ كُنْتُمْ تَطْعُنُونَ فِي إِمَارَةِ أَبِيهِ مِنْ قَبْلُ، وَايْمُ اللَّهِ، إِنْ كَانَ لَخَلِيقًا لِلإِمَارَةِ، وَإِنْ كَانَ لَمِنْ أَحَبِّ النَّاسِ إِلَىَّ، وَإِنَّ هَذَا لَمِنْ أَحَبِّ النَّاسِ إِلَىَّ بَعْدَهُ.

**訳：**

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう伝えています。預言者 ﷺ は一つの部隊を送り、ウサーマ・ブン・ザイドをその指揮官に任じられた。すると一部の人びとがかれの指揮権に異議を唱えた。そこで預言者 ﷺ は言われた。「**あなたがたがかれの指揮権に異議を唱えるなら、以前にもかれの父の指揮権に異議を唱えていた。**アッラーにかけて、かれ（ザイド）は確かに指揮にふさわしかった。**そしてかれはわたしが最も愛**

**する人びとの一人であった。そしてこの者（ウサーマ）は、かれの後でわたしが最も愛する人びとの一人である。」**

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ハーリド・ブン・マフラド ← スライマーン・ブン・ビラール ← アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ザイド・ブン・ハーリサの美徳の章、ハディース第 3730 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3730

## このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、ザイドが「**確かに指揮にふさわしかった**」と誓われました。この賛辞は、教友たちを最もよく知る方からのものです。ムウタでザイドはそれを証明しました。はるかに大きな軍勢を前にしても**退くことなく**、殉教するまで最前線で旗を掲げ続けたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ：貧しい人びとの友

二人目の指揮官は**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه でした。アッラーの使徒 ﷺ のいとこであり、アリーの兄です。かれはアビシニアに移住したムスリムたちを率い、マルヤム章の節を唱えてナジャーシー王の前で語り、ハイバルが開かれたころ — ムウタのおよそ一年前 — にマディーナに戻ったばかりでした。アッラーの使徒 ﷺ はかれにこう言われたことがあります。**「あなたは容姿も性格もわたしに似ている」**（『サヒーフ・ブハーリー』2699）。

高貴な家柄にもかかわらず、ジャアファルは**貧しい人びとへの愛**で知られていました。飢えのあまり腹に石を押し当てたこともあるアブー・フライラ رضى الله عنه は、こう語っています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3708 番**

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ بْنِ دِينَارٍ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ الْجُهَنِيُّ، عَنِ ابْنِ أَبِي ذِئْبٍ، عَنْ سَعِيدٍ الْمَقْبُرِيِّ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّاسَ، كَانُوا يَقُولُونَ أَكْثَرَ أَبُو هُرَيْرَةَ. وَإِنِّي كُنْتُ أَلْزَمُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِشِبَعِ بَطْنِي، حَتَّى لاَ آكُلُ الخَمِيرَ، وَلاَ أَلْبَسُ الحَبِيرَ، وَلاَ يَخْدُمُنِي فُلاَنٌ وَلاَ فُلاَنَةُ، وَكُنْتُ أُلْصِقُ بَطْنِي بِالحَصْبَاءِ مِنَ الجُوعِ، وَإِنْ كُنْتُ لأَسْتَقْرِئُ الرَّجُلَ الآيَةَ هِيَ مَعِي كَيْ يَنْقَلِبَ بِي فَيُطْعِمَنِي، وَكَانَ أَخْيَرَ النَّاسِ لِلْمِسْكِينِ جَعْفَرُ بْنُ أَبِي طَالِبٍ، كَانَ يَنْقَلِبُ بِنَا فَيُطْعِمُنَا مَا كَانَ فِي بَيْتِهِ، حَتَّى إِنْ كَانَ لَيُخْرِجُ إِلَيْنَا الْعُكَّةَ الَّتِي لَيْسَ فِيهَا شَيْءٌ، فَنَشُقُّهَا فَنَلْعَقُ مَا فِيهَا.

**訳：**

アブー・フライラ رضى الله عنه はこう伝えています。人びとは「アブー・フライラはあまりに多く伝えすぎる」と言う。わたしは腹を満たす程度のものだけでアッラーの使徒 ﷺ のそばにいつもいた。発酵させたパンも食べず、模様のある衣も着ず、わたしに仕える男も女もいなかった。わたしは飢えのあまり腹を小石に押し当てたこともあり、自分

がすでに知っている節を誰かに読んでもらうよう頼んだこともある。その人がわたしを家に連れて行き、食べ物をくれるようにと。**そして貧しい者に最も親切な人はジャアファル・ブン・アビー・ターリブであった。**かれはわたしたちを家に連れて行き、家にあるものは何でも食べさせてくれた。空になったバターの革袋まで出してきたので、わたしたちはそれを裂いて、中に残ったものをなめたほどであった。

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・アビー・バクル ← ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・ブン・ディーナール・アル＝ジュハニー ← イブン・アビー・ズィッブ ← サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの美徳の章、ハディース第 3708 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3708

## このハディースの教訓

ジャアファルは貧しい人びとを家に連れ帰り、**家にあるものは何でも**食べさせました。空のバター袋まで裂いて、残りをなめられるようにしたのです。このような気前のよさは、富からではなく**広い心**から生まれます。学者たちは、この性質のゆえにジャアファルは**アブー・アル＝マサーキーン** — 貧しい人びとの父 — と呼ばれたと述べています。

## アブドゥッラー・ブン・ラワーハ：出発前の涙

三人目の指揮官は**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ** رضى الله عنه でした。ハズラジュ族出身のアンサールで、アカバの誓約の代表者（ナキーブ）の一人であり、カダーのウムラのときにマッカの門で詩を響かせた詩人です（第 18 巻）。軍が出発しようとするとき、人びとは別れを告げ、かれらが無事に帰るよう祈りました。イブン・ラワーハは泣きました。

> **スィーラの注：なぜイブン・ラワーハは泣いたのか**
>
> イブン・イスハークによれば、なぜ泣くのかと問われたイブン・ラワーハは、この世を愛するから泣くのではなく、火獄についてのアッラーの御言葉を思い出したからだと答えました。「あなたがたの中で、そこに至らない者は一人もいない」（マルヤム章 19:71）。「そこに至った後、どのようにしてそこから出られるのか、わたしにはわからない。」そしてかれは**赦しと殉教**を願う詩を詠みました。
>
> この伝承は**スィーラ書の情報**（イブン・イスハーク、連続した伝承経路なし）です。しかしその意味は、イブン・ラワーハに広く知られたアッラーへの畏れと一致しています。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

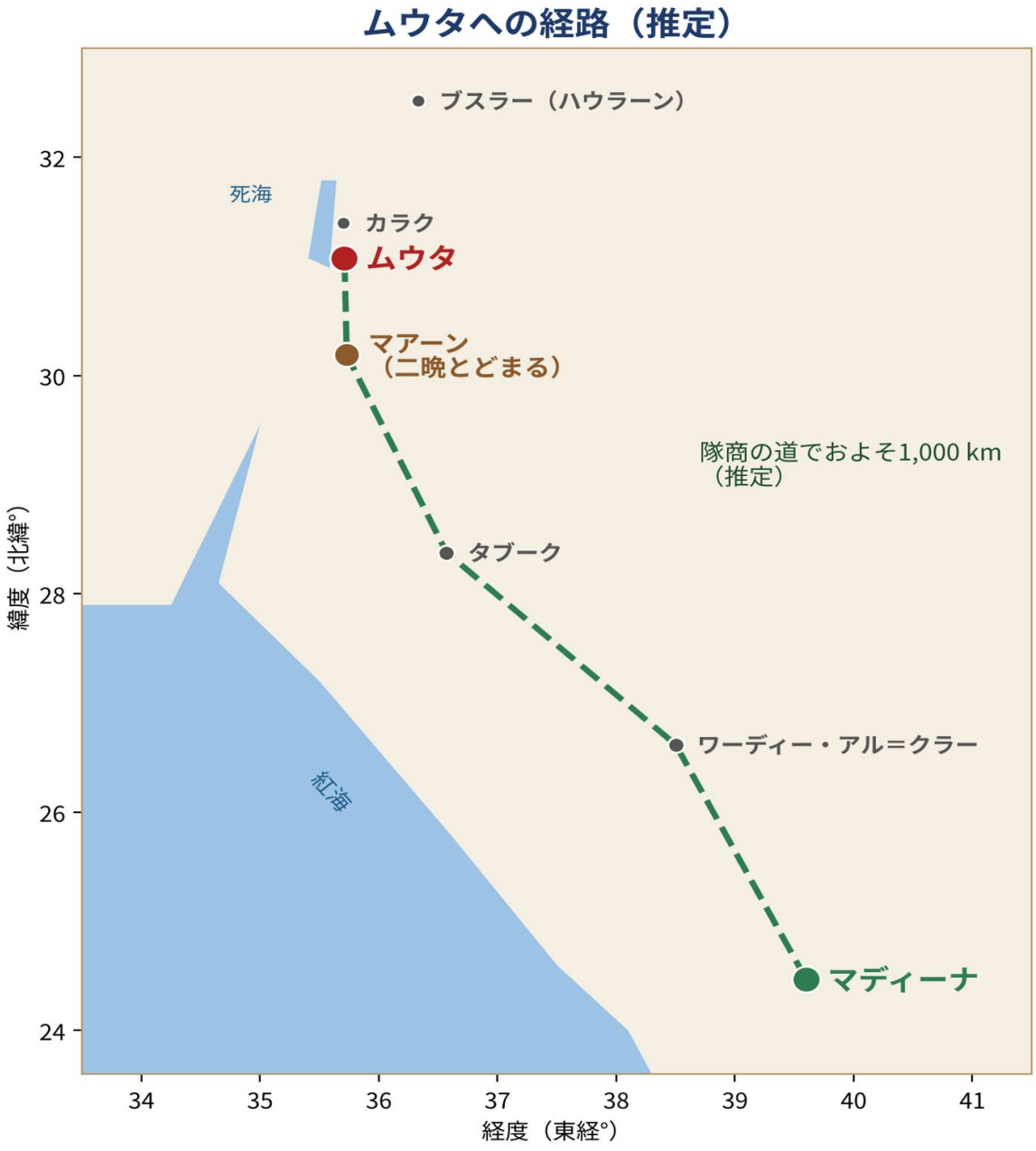
かれを震え上がらせた節はこれです。**「あなたがたの中で、そこに至らない者は一人もいない」**。イブン・カスィールは、ここでの「至る」についての学者の見解 — すなわち火獄の上に架けられた橋を渡ること — を説明しています。『イブン・カスィール注釈』19:71。

教訓：信仰者が戦いに出るのは、**自分が清いと確信しているからではなく**、アッラーの慈悲に望みをかけつつ、その懲罰を畏れているからです。それが**ハウフ**（畏れ）と**ラジャー**（希望）の均衡です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## シャームの地への道のり

三千人の軍勢は、隊商の道に沿って北へ進みました。ワーディー・アル＝クラー、タブーク周辺を経て、今日のヨルダン南部にある**マアーン**に至りました。ムウタは死海の東の高原、**カラク**の町の近くにあります。




町の位置は現代の座標による；経路はシャームへの隊商路に基づく推定。マアーンはスィーラ書による。

図 3：ムウタへの経路（推定）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

**スィーラの注：軍の見送り**

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は軍をマディーナの外、**サニーヤト・アル＝ワダーウ**と呼ばれる所まで見送り、アッラーを畏れること、裏切らないこと、子ども・女性・老人・礼拝所の修道士を殺さないこと、木を切り倒したり建物を壊したりしないことを命じられました。

このような戦争の作法についての命令は、真正なハディースに**一般的に確立している**ものです。例えば、女性と子どもを殺すことの禁止（『サヒーフ・ブハーリー』3015）や、指揮官たちへの訓示（『サヒーフ・ムスリム』1731）です。ただし、ムウタの日の具体的な言葉はスィーラ書の伝承です。

**参照：**

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

隊商の道でマディーナからムウタまでは、およそ**千キロメートル**あります。砂漠の灼熱の太陽の下、何週間もかかる旅です。この軍勢は財産を奪うために出たのではなく、一人の使者の血に対して**正義を求め**、宣教の尊厳を守るために出たのです。

# マアーンでの協議

マアーンに着いたムスリム軍は、驚くべき知らせを受けました。ローマ軍とそのアラブ同盟部族が、予想よりも**はるかに大きな**規模で集結していたのです。

**スィーラの注：二晩の協議**

イブン・イスハークは、ヘラクレイオスがバルカー地方のマアーブに**10万**のローマ兵とともにおり、さらにラフム、ジュザーム、バフラー、バリーなどのアラブ部族から**10万**が加わっていたと伝えています。教友たちはマアーンで二晩協議し、アッラーの使徒ﷺに手紙を書いて援軍か指示を求めようと提案する者もいました。

そのときアブドゥッラー・ブン・ラワーハが語りました。**「わが民よ、アッラーにかけて、あなたがたが嫌っているものこそ、あなたがたが求めて出てきたもの ― 殉教 ― である。わたしたちは人数や力や多さで人と戦うのではない。アッラーがわたしたちを尊くしてくださった宗教によって戦うのだ。さあ進もう！ それは二つの善のどちらかだ。勝利か、殉教か。」**人びとは「アッラーにかけて、イブン・ラワーハの言う通りだ」と言い、前進しました。

20 万という数はイブン・イスハークの伝承であり（アル＝ワーキディーは 10 万とする）、多くの現代の歴史家によって**誇張が大きすぎる**と考えられています。イブン・ラワーハの演説もスィーラ書の伝承です。

**参照：**

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）― ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Battle of Mu'tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Mu%27tah

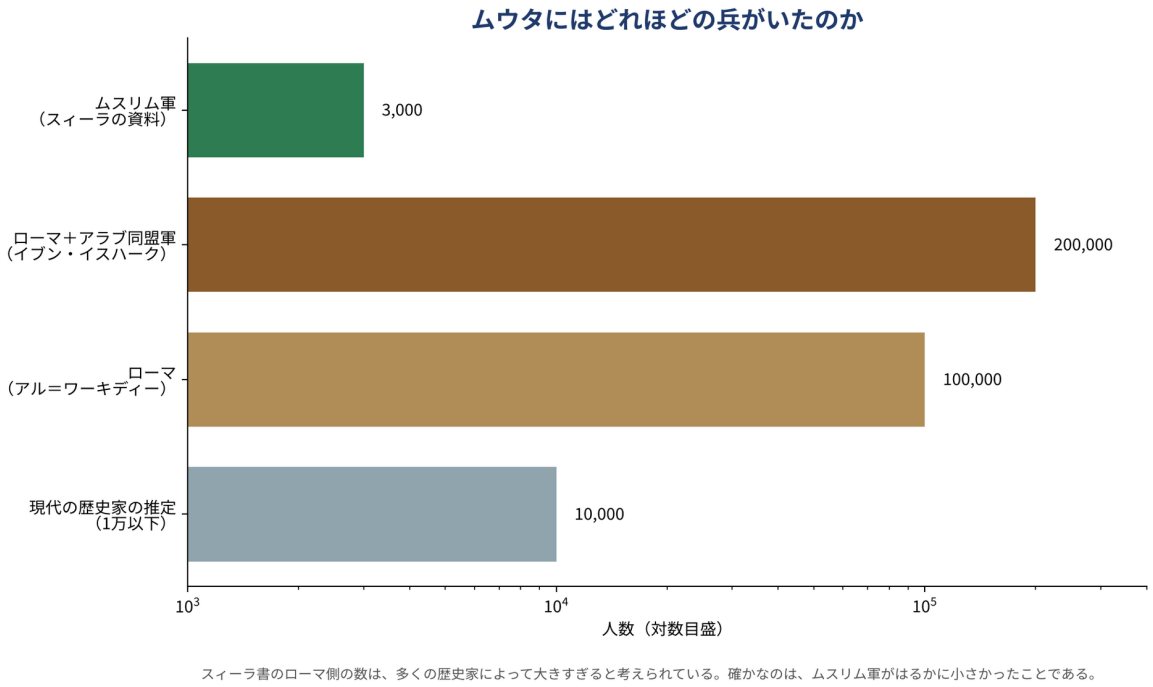



図 4：諸資料によるムウタの兵力。

実際の数がどうであれ、一つの点は一致しています。ムスリム軍は**はるかに小さく**、本拠地から遠く離れ、訓練された帝国軍と向き合っていたということです。前進するという決断は、この世の計算だけによるものではなく、**信仰**による決断でした。

## 「少数の集団が……」

イブン・ラワーハの言葉は、ジャールートと向き合ったタールートの軍を思い起こさせます。アッラーに会うことを確信していた人びとはこう言いました。「**アッラーの御許しにより、少数の集団が多数の集団に打ち勝ったことがいくたびあったことか**」（雌牛章 2:249） — 『イブン・カスィール注釈』2:249。

イブン・カスィールは、勝利は数や装備によるのではなく、**アッラーの助け**と**忍耐**によると説明しています。この節はムスリムに計算なしに無謀に行動せよと命じているのではありません。責任が明らかになったとき、敵の数が信仰ある心を揺るがすべきではない、ということを強調しているのです。

アッラーはまた、敵と出会ったときの作法を教えておられます。「**あなたがたが敵の一団と会ったときは、しっかりと踏みとどまり、アッラーを多く念じなさい**」（戦利品章 8:45） — 『イブン・カスィール注釈』8:45。

そして続く節で。「**互いに争ってはならない。そうすればあなたがたは気力を失い、力は去るであろう**」（戦利品章 8:46） — 『イブン・カスィール注釈』8:46。

マアーンで教友たちは意見を異にしましたが、**分裂はしませんでした**。協議の後、かれらは指導者の決定のもとに一つになりました。これが戦利品章の実践です。自由に話し合い、決定がなされたら従い、しっかりと立つのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# ジャアファル：前面に受けた五十の傷

二つの軍がムウタで相まみえました。**ザイド・ブン・ハーリサ**はアッラーの使徒 ﷺ の旗を掲げて最前線で戦い、体を槍に貫かれて殉教しました。旗は定められた通り、ただちに**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ**が取りました。

戦いの後、アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はジャアファルの遺体のそばに立ち、その傷を数えました。ハディース第 4261 番でかれは**九十を超える**槍と矢の傷跡と述べていますが、次の伝承では五十と述べています — そして、きわめて意味深い一つの詳細を添えています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4260 番**

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ، حَدَّثَنَا ابْنُ وَهْبٍ، عَنْ عَمْرٍو، عَنِ ابْنِ أَبِي هِلاَلٍ، قَالَ وَأَخْبَرَنِي نَافِعٌ، أَنَّ ابْنَ عُمَرَ، أَخْبَرَهُ أَنَّهُ، وَقَفَ عَلَى جَعْفَرٍ يَوْمَئِذٍ وَهُوَ قَتِيلٌ، فَعَدَدْتُ بِهِ خَمْسِينَ بَيْنَ طَعْنَةٍ وَضَرْبَةٍ، لَيْسَ مِنْهَا شَيْءٌ فِي دُبُرِهِ. يَعْنِي فِي ظَهْرِهِ.

**訳：**

ナーフィウは、イブン・ウマル رضى الله عنهما がかれに次のように告げたと伝えています。その日、ジャアファルが倒れたとき、かれはジャアファルのそばに立った。「**わたしはかれの体に五十の刺し傷と打ち傷を数えた。**そのうち一つとして背中側にあるものはなかった。」— すなわち、背や後ろ側には一つもなかったということです。

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・イーサー ← アブドゥッラー・ブン・ワハブ ← アムル・ブン・アル＝ハーリス ← サイード・ブン・アビー・ヒラール；かれは言った。そしてわたしにナーフィウが告げた。 ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4260 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4260

## このハディースの教訓

「**そのうち一つとして背中側にあるものはなかった。**」ジャアファルの傷はすべて体の前面にありました。かれが敵に**決して背を向けなかった**しるしです。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』の中で、数の違い（五十と九十余り）は、前者が槍や剣の傷だけを数え、後者が矢の傷も含めて数えたためか、あるいはそれぞれが体の異なる部分を数えたためであろうと説明しています。

### スィーラの注：ジャアファルとその馬

アブー・ダーウードは（第 2573 番）、ムウタに居合わせたバヌー・ムッラ族の一人の男からこう伝えています。「**アッラーにかけて、ジャアファルが赤毛の馬から降り、その馬の足の腱を切り、それから殺されるまで戦った姿が、今も目に浮かぶようだ。**」この行為は、退かないという決意を示しています。

アブー・ダーウード自身はこの伝承を「強くない」と述べていますが、アルバーニー師は**ハサン（良好）**と評価しています。スィーラ書はまた、ジャアファルが右手で旗を持ち、それが切り落とされると左手で持ち、それも切り落とされると両腕で抱きかかえたと伝えていますが、これは**真正なハディースには見られない**詳細です。

**参照：**

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』— 遠征の書、ムウタの戦いの章。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 

## 二つの翼を持つ者

ジャアファルは、妻の**アスマー・ビント・ウマイス**と、アビシニアで生まれた幼い子どもたちを残して、若くして殉教しました。しかしアッラーは、失われたものを永遠の栄誉で置き換えられました。教友たちは、かれに与えられた呼び名を知っていました：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4264 番**

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ، حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ عَلِيٍّ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ أَبِي خَالِدٍ، عَنْ عَامِرٍ، قَالَ كَانَ ابْنُ عُمَرَ إِذَا حَيَّا ابْنَ جَعْفَرٍ قَالَ السَّلاَمُ عَلَيْكَ يَا ابْنَ ذِي الْجَنَاحَيْنِ.

**訳：**

アーミル（アッ＝シャアビー）は言いました。イブン・ウマル رضى الله عنهما はジャアファルの息子に挨拶するとき、こう言った。「**アッサラーム・アライカ・ヤー・イブナ・ズィル＝ジャナーハイン ― 二つの翼を持つ方の息子よ、あなたに平安あれ。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アビー・バクル・アル＝ムカッダミー ← ウマル・ブン・アリー・アル＝ムカッダミー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← アーミル・アッ＝シャアビー ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4264 番；第 3709 番（ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの美徳の章）にも。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4264

### このハディースの教訓

**ズル＝ジャナーハイン** ― 二つの翼を持つ者。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、この呼び名は、アッラーがムウタで切り落とされたジャアファルの両手を**二つの翼**に置き換え、かれはそれで楽園を天使たちと共に飛んでいる、と

いう伝承に基づくと説明しています。イブン・ウマル رضي الله عنهما は、父への敬意から、その息子アブドゥッラー・ブン・ジャアファルにこの呼び名で挨拶したのです。

**スィーラの注：ジャアファルの翼についての伝承**

アッラーの使徒 ﷺ が、ジャアファルが二つの翼で天使たちと共に楽園を飛んでいるのを見られたと伝える伝承がいくつかあります。『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』（第 3763 番）や、アル＝ハーキム、アッ＝タバラーニーの伝承などです。その伝承経路はハディース学者の間で議論されていますが、経路が多いことから、イブン・ハジャルのように互いに補強し合うと評価する学者もいます。

**確実に真正**なのは、『サヒーフ・ブハーリー』にあるイブン・ウマルの行い、すなわちジャアファルの息子を「二つの翼を持つ方の息子」と呼んだことです。これは、この呼び名が教友たちの間でよく知られていたことを示しています。

**参照：**

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』ジャアファルの美徳の章；『アル＝イサーバ（教友識別の書）』。

教訓：かつて貧しい人びとに食べ物を与えた手、そしてのちに切り落とされるまで旗を握り続けた手を、アッラーは**楽園の翼**で置き換えられました。アッラーのために捧げたものは決して失われません。より永遠の場所へと**移される**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## イブン・ラワーハ：「わが魂よ……」

ジャアファルが倒れると、旗は**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ**が取りました。真正なハディースは簡潔に「それからイブン・ラワーハが取り、かれも倒れた」と述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4262）。スィーラ書は、かれの最期の時をさらに詳しく伝えています。

**スィーラの注：「わが魂よ……」**

イブン・イスハークは、イブン・ラワーハが馬に乗ったまま旗を取り、**少しためらいを覚えた**と伝えています。そこでかれは詩で自分自身に語りかけました。その意味はこうです。**「わが魂よ、わたしは誓う。おまえは降りて（戦わ）ねばならない ― 喜んでであれ、いやいやであれ。人びとは叫び声を上げ、戦いの備えをした。なぜおまえは楽園を嫌っているように見えるのか。」**そしてかれは馬を降り、殉教するまで戦いました。

この詩は連続した伝承経路のない**スィーラ書の伝承**です。しかしそれは、きわめて人間らしいものを描いています。偉大な教友が**自分の中の恐れと戦い**、それに打ち勝ったのです。

**参照：**

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）― ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ラワーハは、マッカの門で詩によって人びとの心を奮い立たせた詩人でした。ムウタでは、詩を使って**自分自身の心を奮い立たせた**のです。これこそ最も繊細なジハード、**ジハード・アン＝ナフス** ― 心が重くても、アッラーが喜ばれることを自分に強いて行うこと ― です。

アッラーの使徒 ﷺ は自制する人についてこう言われました。**「強い者とは格闘で強い者ではない。強い者とは、怒ったときに自分を抑えられる者である」**（『サヒーフ・ブハーリー』6114）。戦場で恐れを抑えることも、同じ強さです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | 

## アッラーの剣の一つ

任命された三人の指揮官は倒れました。アッラーの使徒 ﷺ は四人目の指揮官を定めておられませんでした。その危機の瞬間、軍は**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**を選びました。ウフドでクライシュの騎兵を率いてムスリムを攻撃した人物であり、ムウタのわずか数か月前にイスラームに入信した人です。

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 1246 番**

حَدَّثَنَا أَبُو مَعْمَرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَخَذَ الرَّايَةَ زَيْدٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَهَا جَعْفَرٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَهَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ فَأُصِيبَ ـ وَإِنَّ عَيْنَىْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَتَذْرِفَانِ ـ ثُمَّ أَخَذَهَا خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ مِنْ غَيْرِ إِمْرَةٍ فَفُتِحَ لَهُ

**訳：**

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう伝えています。預言者 ﷺ は言われた。「**ザイドが旗を取り、倒れた。それからジャアファルが取り、倒れた。それからアブドゥッラー・ブン・ラワーハが取り、倒れた**」 ― そのときアッラーの使徒 ﷺ の両目からは涙が流れていた ― 「**それからハーリド・ブン・アル＝ワリードが**任命されることなく**それを取り、かれによって勝利が開かれた。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・マアマル ← アブドゥルワーリス・ブン・サイード ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、死者の家族に自ら訃報を伝える人の章、ハディース第 1246 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1246

## このハディースの教訓

「**任命されることなく**」（ミン・ガイリ・イムラ）— ハーリドはアッラーの使徒 ﷺ によって任命されたのではなく、戦場で教友たちによって選ばれました。イブン・ハジャルは、このハディースが、任命された指導者がいなくなり事態が切迫したときには、公益のために**集団が指導者を選ぶことができる**という根拠であり、その行為はアッラーの使徒 ﷺ によって認められた、と述べています。

**スィーラの注：ハーリドはどのように選ばれたのか**

イブン・イスハークは、イブン・ラワーハが倒れた後、旗を**サービト・ブン・アクラム**（バリー族出身、アジュラーン家の同盟者）が取り、こう叫んだと伝えています。「ムスリムたちよ、あなたがたの中から一人の男を選ぶことに合意せよ！」人びとは「あなただ」と言いました。かれは「わたしはそうしない」と言いました。そこで人びとはハーリド・ブン・アル＝ワリードを選ぶことに合意しました。

この詳細は**スィーラ書の伝承**です。真正なのは、ハーリドが「任命されることなく」旗を取り、かれによって勝利が開かれたということです。

**参照：**

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

サービト・ブン・アクラムの態度に注目してください。かれは旗を手にしていましたが、**地位を争いませんでした**。戦いの知識においてより適した人にそれを委ねたのです。これがイスラームにおける指導の作法です。地位は誇りではなく、預かりものなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 折れた九本の剣

ハーリドの指揮のもとでの戦いは、どれほど激しかったのでしょうか。かれ自身が、短いけれどもすべてを物語る一文で語っています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4265 番**

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ، عَنْ قَيْسِ بْنِ أَبِي حَازِمٍ، قَالَ سَمِعْتُ خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ، يَقُولُ لَقَدِ انْقَطَعَتْ فِي يَدِي يَوْمَ مُوتَةَ تِسْعَةُ أَسْيَافٍ، فَمَا بَقِيَ فِي يَدِي إِلاَّ صَفِيحَةٌ يَمَانِيَةٌ.

**訳：**

カイス・ブン・アビー・ハーズィムは言いました。わたしはハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。「**ムウタの日、わたしの手の中で九本の剣が折れた。わたしの手に残ったのは、イエメン製の幅広の剣一本だけであった。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム・アル＝ファドル・ブン・ドゥカイン ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4265 番；第 4266 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4265

### このハディースの教訓

**九本の剣が折れた**のです — 一日のうちに、一人の男の手で。持ちこたえたのはイエメン製の幅広の剣（サフィーハ・ヤマーニーヤ）一本だけでした。イブン・ハジャルは、これは**戦いがいかに激しかったか**、そしてハーリド自身がいかに多くの敵と向き合ったかを示していると説明しています。

**スィーラの注：ハーリドの戦略**

アル＝ワーキディーと何人かの歴史家によれば、ハーリドは夕方まで戦い、その夜**隊列を組み替えました**。右翼を左に、前列を後ろに入れ替え、一部の兵には後方で砂ぼこりを立てるよう命じたのです。朝になると、ローマ軍は新しい顔ぶれを見て、マディーナから援軍が来たと思い込みました。かれらはおじけづき、ハーリドは**ムスリム軍を無事に撤退させる**ことに成功しました。

この戦略の詳細は**スィーラ書の情報**であり、真正なハディースには述べられていません。歴史家たちはその細部について意見が分かれていますが、ハーリドが軍の大部分を救ったという点では一致しています。

**参照：**

アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Khalid ibn al-Walid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khalid_ibn_al-Walid

ウフドでハーリドは、その軍事的才能をムスリムに**敵対して**用いました。ムウタでは、同じ才能がかれらを**救うために**用いられました。イスラームは人の才能を捨てるのではなく、**その向きを変え**、善へと導くのです。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「ジャーヒリーヤ（無明時代）に最も優れていた者は、（宗教を）理解すれば、イスラームにおいても最も優れている」（『サヒーフ・ブハーリー』3493）。

## 知らせより先の知らせ

シャームの地、千キロメートル以上離れた所で戦いが行われている間、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナにおられました。速い馬も、使者も、通信の手段もありません。それでも使徒は説教壇に上り、いま起きていることを告げられたのです：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4262 番**

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ وَاقِدٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم نَعَى زَيْدًا وَجَعْفَرًا وَابْنَ رَوَاحَةَ لِلنَّاسِ، قَبْلَ أَنْ يَأْتِيَهُمْ خَبَرُهُمْ فَقَالَ أَخَذَ الرَّايَةَ زَيْدٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَ جَعْفَرٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَ ابْنُ رَوَاحَةَ فَأُصِيبَ ـ وَعَيْنَاهُ تَذْرِفَانِ ـ حَتَّى أَخَذَ الرَّايَةَ سَيْفٌ مِنْ سُيُوفِ اللَّهِ حَتَّى فَتَحَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ.

**訳：**

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ が、ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハの死を**かれらについての知らせが届く前に**人びとに告げられたと伝えています。使徒は言われた。「**ザイドが旗を取り、倒れた。それからジャアファルが取り、倒れた。それからイブン・ラワーハが取り、倒れた**」 ― 使徒の両目からは涙が流れていた ― 「**ついに旗はアッラーの剣の一つ**が取り、**アッラーはかれらに勝利を与えられた。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ワーキド ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4262 番；第 1246、2798、3063、3757 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4262

## このハディースの教訓

このハディースには明らかな**奇跡**が含まれています。アッラーの使徒 ﷺ は、三人の指揮官の死を正確な順序で、そしてハーリドによる勝利を、知らせが届く**前に**告げられたのです。学者たちはこれを預言者性のしるし（ダラーイル・アン＝ヌブーワ）の一つに数えています。その知識は啓示によってしか得られないからです。

このハディースはまた、ハーリドに永遠の呼び名を与えました。「**アッラーの剣の一つ**」（サイフン・ミン・スユーフィッラー）。サイフッラー（アッラーの剣）という呼び名は、ムウタで — ムスリムとしてのハーリドの最初の戦いで — 生まれたのです。

知らせを伝えるときのアッラーの使徒 ﷺ のご様子にも注目してください。「**使徒の両目からは涙が流れていた。**」ウンマの最も強い指導者は、教友たちに対して最も優しい心を持つ方でもあったのです。

## マダディーの男と指揮官への服従

ムウタの軍には、**マダディー**（援軍の兵）としてイエメンから来た一人の男がいました。アウフ・ブン・マーリク رضى الله عنه はアブー・ダーウードの伝承（第 2719 番、アルバーニーは真正と評価）の中で、この男は剣一本しか持っていなかったと語っています。かれは屠ったラクダの皮で盾を作りました。戦いの中で、金で飾られた鞍と武器を持つ赤毛の馬に乗ったローマ兵が、ムスリムに激しく襲いかかりました。マダディーの男は岩の陰に隠れ、その馬の足の腱を切り、その兵を討ち取りました。

指揮官であったハーリドは、その敵の持ち物（サラブ）があまりに多いと考えて取り上げました。イマーム・ムスリムはその後の出来事を伝えています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1753 番**

وَحَدَّثَنِي أَبُو الطَّاهِرِ، أَحْمَدُ بْنُ عَمْرِو بْنِ سَرْحٍ أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ وَهْبٍ، أَخْبَرَنِي مُعَاوِيَةُ بْنُ صَالِحٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَوْفِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ قَتَلَ رَجُلٌ مِنْ حِمْيَرَ رَجُلاً مِنَ الْعَدُوِّ فَأَرَادَ سَلَبَهُ فَمَنَعَهُ خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ وَكَانَ وَالِيًا عَلَيْهِمْ فَأَتَى رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَوْفُ بْنُ مَالِكٍ فَأَخْبَرَهُ فَقَالَ لِخَالِدٍ مَا مَنَعَكَ أَنْ تُعْطِيَهُ سَلَبَهُ. قَالَ اسْتَكْثَرْتُهُ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ ادْفَعْهُ إِلَيْهِ. فَمَرَّ خَالِدٌ بِعَوْفٍ فَجَرَّ بِرِدَائِهِ ثُمَّ قَالَ هَلْ أَنْجَزْتُ لَكَ مَا ذَكَرْتُ لَكَ مِنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَسَمِعَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَاسْتَغْضَبَ فَقَالَ لاَ تُعْطِهِ يَا خَالِدُ لاَ تُعْطِهِ يَا خَالِدُ هَلْ أَنْتُمْ تَارِكُونَ لِي أُمَرَائِي إِنَّمَا مَثَلُكُمْ وَمَثَلُهُمْ كَمَثَلِ رَجُلٍ اسْتَرْعَى إِبِلاً أَوْ غَنَمًا فَرَعَاهَا ثُمَّ تَحَيَّنَ سَقْيَهَا فَأَوْرَدَهَا حَوْضًا فَشَرِعَتْ فِيهِ فَشَرِبَتْ صَفْوَهُ وَتَرَكَتْ كَدَرَهُ فَصَفْوُهُ لَكُمْ وَكَدَرُهُ عَلَيْهِمْ.

**訳：**

アウフ・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう伝えています。ヒムヤル（族）の一人の男が敵を一人殺し、その敵の持ち物（サラブ）を取ろうとしたが、かれらの指揮官であったハーリド・ブン・アル＝ワリードがそれを阻んだ。アウフ・ブン・マーリクはアッラーの使徒 ﷺ のもとに来てそのことを告げた。使徒はハーリドに「何がおまえにそのサラ

ブをかれに与えることを妨げたのか」と尋ねられた。ハーリドは「多すぎると思ったのです、アッラーの使徒よ」と答えた。使徒は「かれに渡しなさい」と言われた。するとハーリドがアウフのそばを通ったとき、アウフはかれの外衣を引っぱって「わたしがアッラーの使徒 ﷺ について言ったことを果たしたではないか」と言った。アッラーの使徒 ﷺ はそれを聞いて怒り、こう言われた。**「かれに与えるな、ハーリドよ！ かれに与えるな、ハーリドよ！** あなたがたは、わたしが任命した指揮官たちを（非難の的として）放っておくつもりか。**あなたがたとかれらのたとえは、ラクダか羊を預かって放牧する男のようなものだ。かれは放牧し、水を飲ませる時を待って、それらを水場に連れて行く。動物たちは澄んだ水を飲み、濁った水を残す。澄んだものはあなたがたのものとなり、濁ったものはかれらが負うのである。」**

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承：アブー・アッ＝ターヒル・アフマド・ブン・アムル・ブン・サルフ ← アブドゥッラー・ブン・ワハブ ← ムアーウィヤ・ブン・サーリフ ← アブドゥッラフマーン・ブン・ジュバイル・ブン・ヌファイル ← その父ジュバイル・ブン・ヌファイル ← アウフ・ブン・マーリク・アル＝アシュジャイー رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、殺した者が殺された者の持ち物を受ける権利の章、ハディース第 1753a 番。アブー・ダーウードの伝承（第 2719 番）では、アウフはこの出来事がムウタの戦いで起きたと述べています。

**等級：** サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1753a

## このハディースの教訓

このハディースは、釣り合いのとれた二つの教訓を教えています。**第一に**、兵士の権利は守られます。アッラーの使徒 ﷺ はハーリドにサラブを返すよう命じられました。**第二に**、アウフがその決定を使って人前でハーリドに恥をかかせたとき、アッラーの使徒 ﷺ はそれを**取り消され**、「あなたがたは、わたしが任命した指揮官たちを（非難の的として）放っておくつもりか」と言われたのです。

このハディースの水場のたとえは、とても美しいものです。民は**澄んだ水**（良いもの）を得、指導者は**濁った水**（重荷と非難）を負います。ですから民は、あざけり

によって指導者の重荷を増やしてはなりません。忠告はしてよいが、作法をもって。権利を求めてよいが、相手の尊厳を傷つけずに。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 涙を流されたアッラーの使徒ﷺ

ついに公式の知らせがマディーナに届きました。アーイシャ رضى الله عنها は、そのときのアッラーの使徒ﷺの家の様子をこう描いています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4263 番**

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، قَالَ سَمِعْتُ يَحْيَى بْنَ سَعِيدٍ، قَالَ أَخْبَرَتْنِي عَمْرَةُ، قَالَتْ سَمِعْتُ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ تَقُولُ لَمَّا جَاءَ قَتْلُ ابْنِ حَارِثَةَ وَجَعْفَرِ بْنِ أَبِي طَالِبٍ وَعَبْدِ اللَّهِ بْنِ رَوَاحَةَ ـ رضى الله عنهم ـ جَلَسَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُعْرَفُ فِيهِ الْحُزْنُ ـ قَالَتْ عَائِشَةُ ـ وَأَنَا أَطَّلِعُ مِنْ صَائِرِ الْبَابِ ـ تَعْنِي مِنْ شَقِّ الْبَابِ ـ فَأَتَاهُ رَجُلٌ فَقَالَ أَىْ رَسُولَ اللَّهِ إِنَّ نِسَاءَ جَعْفَرٍ قَالَ وَذَكَرَ بُكَاءَهُنَّ، فَأَمَرَهُ أَنْ يَنْهَاهُنَّ قَالَ فَذَهَبَ الرَّجُلُ ثُمَّ أَتَى فَقَالَ قَدْ نَهَيْتُهُنَّ. وَذَكَرَ أَنَّهُ لَمْ يُطِعْنَهُ قَالَ فَأَمَرَ أَيْضًا فَذَهَبَ ثُمَّ أَتَى فَقَالَ وَاللَّهِ لَقَدْ غَلَبْنَنَا. فَزَعَمَتْ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ فَاحْثُ فِي أَفْوَاهِهِنَّ مِنَ التُّرَابِ قَالَتْ عَائِشَةُ فَقُلْتُ أَرْغَمَ اللَّهُ أَنْفَكَ، فَوَاللَّهِ مَا أَنْتَ تَفْعَلُ، وَمَا تَرَكْتَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْعَنَاءِ.

**訳：**

アムラは言いました。わたしはアーイシャ رضى الله عنها がこう言うのを聞いた。イブン・ハーリサ、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハ رضى الله عنهم が殺されたという知らせが届いたとき、**アッラーの使徒ﷺは座られ、そのお顔には悲しみがはっきりと表れていた。**アーイシャは言った。わたしは戸のすき間からのぞいていた。すると一人の男が来て「アッラーの使徒よ、ジャアファルの（家の）女たちが.....」と言い、かの女たちが泣いていることを告げた。使徒はかの女たちをやめさせるよう命じられた。男は行き、また来て「やめさせました」と言い、しかしかの女たちが従わなかったことを告げた。使徒は再び命じられた。男は行き、また来て「アッラーにかけて、かの女たちにはかないません」と言った。アーイシャによれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**それなら、かの女たちの口に土をまきなさい。**」アーイシャは言った。わたしは（その男に）言った。「アッラーがあなたを辱められますよう

に！ アッラーにかけて、あなたは（命じられたことを）しなかったし、アッラーの使徒 ﷺ を煩わしさから解放することもしなかった。」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アブドゥルワッハーブ・アッ＝サカフィー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝アンサーリー ← アムラ・ビント・アブドゥッラフマーン ← アーイシャ رضى الله عنها。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4263 番；第 1299 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4263

## このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は**座られ、そのお顔には悲しみがはっきりと表れていました。**悲しみは信仰の弱さのしるしではありません。生きた心のしるしです。イマーム・ブハーリーは同じハディースを葬儀の書の「災難に遭ったとき、座って悲しみが表れた人」の章にも置いています（第 1299 番）。

しかし使徒は**泣き叫ぶ哀悼**（ニヤーハ） — 叫び、嘆き、死者のことを大げさに言い立てて泣くこと — を禁じられました。学者たちは、「かの女たちの口に土をまきなさい」という指示は、哀悼の禁止が**いかに厳しいか**を示すための表現であり、文字どおり実行するための命令ではないと説明しています。涙を流して泣くことは許されますが、泣き叫ぶ哀悼は許されません。

クルアーンは災難のときの正しい態度を教えています。**「本当にわたしたちはアッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります」**（雌牛章 2:156） — 『イブン・カスィール注釈』2:156。

そしてかれらへの報いを。**「これらの者の上にこそ、主からの祝福と慈悲が下る」**（雌牛章 2:157） — 『イブン・カスィール注釈』2:157。

## ジャアファルの家族のための食事

ジャアファルの家では、アスマー・ビント・ウマイスが、まだ幼い子どもたちと共に夫の死の知らせを受けました。アッラーの使徒 ﷺ は弔意を述べるだけでなく、ご自身の家族に**実際的な指示**を与えられました：

**ハディース ― 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 998 番**

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، وَعَلِيُّ بْنُ حُجْرٍ، قَالاَ حَدَّثَنَا سُفْيَانُ بْنُ عُيَيْنَةَ، عَنْ جَعْفَرِ بْنِ خَالِدٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ جَعْفَرٍ، قَالَ لَمَّا جَاءَ نَعْىُ جَعْفَرٍ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اصْنَعُوا لأَهْلِ جَعْفَرٍ طَعَامًا فَإِنَّهُ قَدْ جَاءَهُمْ مَا يَشْغَلُهُمْ.

**訳：**

アブドゥッラー・ブン・ジャアファル رضى الله عنهما はこう伝えています。ジャアファルの死の知らせが届いたとき、預言者 ﷺ は言われた。「**ジャアファルの家族のために食事を作りなさい。**かれらには、かれらを忙しくさせることが起きたのだから。」

**伝承経路：** イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・ブン・マニーウとアリー・ブン・フジュル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← ジャアファル・ブン・ハーリド ← その父ハーリド・ブン・サーラ ← アブドゥッラー・ブン・ジャアファル رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』葬儀の書、死者の家族のために作られる食事の章、ハディース第 998 番；アブー・ダーウード第 3132 番にも。

**等級：** ハサン（良好） ― イマーム・ティルミズィーはハサンと評価；アブー・ダーウード（第 3132 番）も伝え、アルバーニー師もハサンと評価。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:998

### このハディースの教訓

これが弔問における**スンナ**です。隣人や親族が死者の家族のために食事を用意するのです。家族は災難に追われ、料理をする余裕がないからです。イマーム・ティルミズィーは、一部の学者がこれを勧めており、それはイマーム・シャーフィイーの

見解でもあると記しています。逆の慣行 — 死者の家族に客のための食事を用意させること — は、このハディースの精神に反します。

アブドゥッラー・ブン・ジャアファルはまた、アブー・ダーウードの伝承（第 4192 番、アルバーニーは真正と評価）の中で、アッラーの使徒 ﷺ がジャアファルの家族に**三日間**の猶予を与え、それからかれらのもとに来て、こう言われたと語っています。「**今日の後は、わたしの兄弟のために泣いてはならない。**」使徒はジャアファルの子どもたちを連れて来させ — 「わたしたちはひな鳥のように使徒のもとに連れて来られた」 — 床屋を呼んで、かれらの頭を剃らせました。

この三日間は、妻以外の者にとっての**服喪の規定** — 三日を超えないこと — の根拠となっています。アッラーの使徒 ﷺ が孤児たちの頭を剃らせたのは、**新しい始まり**のしるしであり、また使徒ご自身がかれらの面倒を見るというしるしでした。孤児への愛情は言葉で終わるのではなく、行いとなって表れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 「いや、かれらは生きている」

ムウタで倒れたザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハ、そして他の教友たちはどうなったのでしょうか。クルアーンははっきりと答えています：

**イムラーン家章 3:169–171**

وَلَا تَحْسَبَنَّ ٱلَّذِينَ قُتِلُوا۟ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ أَمْوَٰتًۢا ۚ بَلْ أَحْيَآءٌ عِندَ رَبِّهِمْ يُرْزَقُونَ ﴿١٦٩﴾

「アッラーの道のために殺害された者を、死んだと思ってはならない。いや、かれらは主の御許で扶養されて、生きている。」

فَرِحِينَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ وَيَسْتَبْشِرُونَ بِٱلَّذِينَ لَمْ يَلْحَقُوا۟ بِهِم مِّنْ خَلْفِهِمْ أَلَّا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿١٧٠﴾

「かれらはアッラーの恩恵により、授かったものに満悦し、かれらのあとに続く（生き残った）人たちのために喜んでいる。その（生き残った）人たちは恐れもなく憂いもないと。」

يَسْتَبْشِرُونَ بِنِعْمَةٍ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَضْلٍ وَأَنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجْرَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ﴿١٧١﴾

「アッラーの御恵みと恩恵を喜び、またアッラーが信者への報奨を、決してむだにされないことを喜んでいる。」

訳：三田了一 — quran.com/3:169-171

教友たち自身も、この節の意味を尋ねたことがあります。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ の答えを伝えています：

**ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1887 番**

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ يَحْيَى، وَأَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ كِلاَهُمَا عَنْ أَبِي مُعَاوِيَةَ، ح وَحَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، أَخْبَرَنَا جَرِيرٌ، وَعِيسَى بْنُ يُونُسَ، جَمِيعًا عَنِ الأَعْمَشِ، ح وَحَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ

اللَّهِ بْنِ نُمَيْرٍ، - وَاللَّفْظُ لَهُ - حَدَّثَنَا أَسْبَاطٌ، وَأَبُو مُعَاوِيَةَ قَالاَ حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مُرَّةَ، عَنْ مَسْرُوقٍ، قَالَ سَأَلْنَا عَبْدَ اللَّهِ عَنْ هَذِهِ الآيَةِ، { وَلاَ تَحْسَبَنَّ الَّذِينَ قُتِلُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ أَمْوَاتًا بَلْ أَحْيَاءٌ عِنْدَ رَبِّهِمْ يُرْزَقُونَ} قَالَ أَمَا إِنَّا قَدْ سَأَلْنَا عَنْ ذَلِكَ فَقَالَ أَرْوَاحُهُمْ فِي جَوْفِ طَيْرٍ خُضْرٍ لَهَا قَنَادِيلُ مُعَلَّقَةٌ بِالْعَرْشِ تَسْرَحُ مِنَ الْجَنَّةِ حَيْثُ شَاءَتْ ثُمَّ تَأْوِي إِلَى تِلْكَ الْقَنَادِيلِ فَاطَّلَعَ إِلَيْهِمْ رَبُّهُمُ اطِّلاَعَةً فَقَالَ هَلْ تَشْتَهُونَ شَيْئًا قَالُوا أَىَّ شَىْءٍ نَشْتَهِي وَنَحْنُ نَسْرَحُ مِنَ الْجَنَّةِ حَيْثُ شِئْنَا فَفَعَلَ ذَلِكَ بِهِمْ ثَلاَثَ مَرَّاتٍ فَلَمَّا رَأَوْا أَنَّهُمْ لَنْ يُتْرَكُوا مِنْ أَنْ يُسْأَلُوا قَالُوا يَا رَبِّ نُرِيدُ أَنْ تَرُدَّ أَرْوَاحَنَا فِي أَجْسَادِنَا حَتَّى نُقْتَلَ فِي سَبِيلِكَ مَرَّةً أُخْرَى. فَلَمَّا رَأَى أَنْ لَيْسَ لَهُمْ حَاجَةٌ تُرِكُوا.

**訳：**

マスルークは言いました。わたしたちはアブドゥッラー（・ブン・マスウード）にこの節について尋ねた。「アッラーの道のために殺された者を、死んだものと思ってはならない。いや、かれらは主の御許で生きており、糧を与えられている」（イムラーン家章3:169）。かれは言った。わたしたちは以前このことについて（アッラーの使徒 ﷺ に）尋ねた。すると使徒は言われた。**「かれらの魂は緑の鳥の腹の中にあり、その鳥たちには玉座に吊るされた灯火がある。鳥たちは楽園の中を望むままに自由に飛び回り、それからその灯火に戻る。**そのとき主はかれらを見て、『何か望むものはあるか』と仰せになる。かれらは『楽園の中を望むままに自由にしているのに、これ以上何を望みましょう』と答える。アッラーはかれらに三度そうなさる。問われ続けることを悟ると、かれらは言う。**『主よ、わたしたちの魂をわたしたちの体に戻してください。もう一度あなたの道のために殺されるために。』**アッラーは、かれらに何の必要もないことを御覧になると、かれらをそのままにされる。」

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承（複数の経路）：ヤフヤー・ブン・ヤフヤーとアブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← アブー・ムアーウィヤ；またイスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミードとイーサー・ブン・ユーヌス ← アル＝アアマシュ；またムハンマド・ブン・アブドゥッラー・ブン・ヌマイル ← アスバート・ブン・ムハンマドとアブー・ムアーウィヤ ← アル＝アアマシュ ← アブドゥッラー・ブン・ムッラ ← マスルーク・ブン・アル＝アジュダウ ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』統治の書、殉教者の魂が楽園にあることの説明の章、ハディース第 1887 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1887

## このハディースの教訓

殉教者たちの生は**特別なバルザフ（中間界）の生**であり、この世の生とも、普通の死者の生とも異なります。イブン・カスィールは、信仰者の魂は一般に楽園にあるが、殉教者の魂は**緑の鳥の中に宿り**、楽園で自由にしているという栄誉を与えられていると説明しています。

別の節もこう強調しています。「**いや、かれらは生きている。だがあなたがたはそれに気付かない**」（雌牛章 2:154） — 『イブン・カスィール注釈』2:154。

## 殉教者たちの願い

イブン・マスウードのハディースでは、殉教者たちはアッラーの道で**もう一度殺されるために**この世に戻してほしいと願いました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه も、似た言葉を伝えています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2817 番**

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ سَمِعْتُ قَتَادَةَ، قَالَ سَمِعْتُ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ مَا أَحَدٌ يَدْخُلُ الْجَنَّةَ يُحِبُّ أَنْ يَرْجِعَ إِلَى الدُّنْيَا وَلَهُ مَا عَلَى الأَرْضِ مِنْ شَىْءٍ، إِلاَّ الشَّهِيدُ، يَتَمَنَّى أَنْ يَرْجِعَ إِلَى الدُّنْيَا فَيُقْتَلَ عَشْرَ مَرَّاتٍ، لِمَا يَرَى مِنَ الْكَرَامَةِ.

**訳：**

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**楽園に入った者で、たとえ地上のすべてのものを持っていたとしても、この世に戻りたいと願う者は一人もいない。**ただ殉教者だけは別である。**かれは、自分が見た栄誉のゆえに、この世に戻って十回殺されることを願うのである。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル（ムハンマド・ブン・ジャアファル） ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、戦士がこの世に戻ることを願うことの章、ハディース第 2817 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2817

### このハディースの教訓

楽園の住人は、たとえこの世のすべてを与えられても、この世に戻りたいとは願いません ― **ただ殉教者だけは別です。**かれが見た栄誉のゆえです。これがムウタの教

友たちの勇気を説明しています。かれらはアッラーの道での死を損失ではなく、**栄誉への扉**と見ていたのです。

**部族連合章 33:23**

مِّنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ رِجَالٞ صَدَقُواْ مَا عَٰهَدُواْ ٱللَّهَ عَلَيۡهِۖ فَمِنۡهُم مَّن قَضَىٰ نَحۡبَهُۥ وَمِنۡهُم مَّن يَنتَظِرُۖ وَمَا بَدَّلُواْ تَبۡدِيلٗا ٢٣

「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し、また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。」

訳：三田了一 — quran.com/33:23

この節はムウタの教友たちを的確に描いています。ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハは**誓いを果たし**、ハーリドや他の人びとは**その時を待ち**ました — そして「かれらは（その約束を）少しも変えない」のです。

注：殉教の美徳についてのハディースは、正当な指導のもとでの正当なジハード — アッラーの言葉を高めることを意図し、シャリーアが定める戦争の作法を守るもの — について述べたものです。一般市民への暴力や、シャリーアに反する個人の行動の口実にすることは決してできません。

## 勝利か、撤退か

ムウタは勝利だったのでしょうか、敗北だったのでしょうか。この問いは昔から歴史家の間で論じられてきました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身はこう言われました。**「ついにアッラーはかれらに勝利を与えられた」**（『サヒーフ・ブハーリー』4262）、そして**「かれによって勝利が開かれた」**（『サヒーフ・ブハーリー』1246）。

| 見解 | 根拠 |
|---|---|
| 勝利（ファトフ） | アッラーの使徒 ﷺ の言葉；小さな軍が大帝国から無事に生還 |
| 成功した撤退 | ハーリドが敵に追撃されることなく軍を救った |
| 戦場の一部での勝利 | 敵も退いたとする伝承がある |
| 敗北（ローマ側の資料） | ビザンツの資料は自軍の勝利とみなしている |

**スィーラの注：「逃げた者たちよ！」**

イブン・イスハークは、軍がマディーナに帰ったとき、一部の人びとがかれらに土を投げつけて「逃げた者たち（フッラール）よ、アッラーの道から逃げたのか！」と言ったと伝えています。するとアッラーの使徒 ﷺ は言われました。**「かれらは逃げた者たちではない。アッラーが望まれるなら、再び攻め返す者たち（クッラール）である。」**

この伝承は伝承経路に疑義のある**スィーラ書の情報**です。賢明な撤退は戦場からの逃亡ではないことを示すためによく引かれます。これは、「戦術のために」退く者を除外している戦利品章 8:16 のアッラーの御言葉と合致しています。

**参照：**

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Battle of Mu'tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Mu%27tah

戦いの結果についての見方がどうであれ、ムウタの影響はきわめて大きなものでした。三千人がローマに立ち向かったことで、北方のアラブ諸部族はムスリムを**一目置くべき勢力**と見なすようになりました。四か月後にマッカは開かれ、その数年後にはハーリド自身がヤルムークの戦いでムスリム軍を率い、シャームにおけるローマの支配に終止符を打ったのです。

## ウサーマ：受け継がれた旗

ザイド・ブン・ハーリサはムウタで倒れましたが、かれの物語はそこで終わりませんでした。その息子**ウサーマ・ブン・ザイド** رضى الله عنهما はアッラーの使徒 ﷺ の家で育ち、「**アッラーの使徒の愛する者の、愛する息子**」（アル＝ヒッブ・イブン・アル＝ヒッブ）と呼ばれました。ムウタからおよそ三年後、生涯の最後の日々に、アッラーの使徒 ﷺ はシャームの地へ向かう部隊を整え、当時まだごく若かったウサーマをその指揮官に任じられました。

かつてザイドの指揮権に異議を唱えたように、一部の人びとはこの任命にも異議を唱えました。アッラーの使徒 ﷺ の答えは第 3 章ですでに読みました。「**アッラーにかけて、かれ（ザイド）は確かに指揮にふさわしかった……そしてこの者（ウサーマ）は、かれの後でわたしが最も愛する人びとの一人である**」（『サヒーフ・ブハーリー』3730；第 4469 番も参照）。

**スィーラの注：ムウタの地へ向かったウサーマの部隊**

イブン・サアドとスィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ はウサーマに、**アル＝バルカー**地方 — 父がムウタで倒れた地域 — まで軍を率いるよう命じられました。部隊はアッラーの使徒 ﷺ が病に倒れ亡くなられたために出発が遅れましたが、その後アブー・バクル رضى الله عنه は、一部の教友が延期を提案したにもかかわらず、カリフとしての最初の務めとしてその派遣を実行しました。

この目的地と出来事の詳細は**スィーラ書の情報**です。真正なのは、ウサーマの任命と、アッラーの使徒 ﷺ によるかれの擁護です。

**参照：**

イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Usama ibn Zayd」。https://en.wikipedia.org/wiki/Usama_ibn_Zayd

教訓：父の犠牲は**無駄ではありません**。ムウタでザイドの手から落ちた旗は、その息子によって再び掲げられました。アッラーの使徒 ﷺ は、殉教者の家族を大切にし、

ふさわしい若い世代には、たとえ若くても機会を与えるようウンマに教えられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 今日のムウタ

今日、ムウタはヨルダンの**カラク県**にある町で、その名は**ムウタ大学**に残されています。近くのアル＝マザール地区には、ムウタの殉教者たち ― ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ、ザイド・ブン・ハーリサ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハなど ― のものとされる霊廟とモスクの複合施設があります。

**スィーラの注：アル＝マザールの霊廟**

歴史資料によれば、元の霊廟は 13 世紀にマムルーク朝のスルタン**バイバルス**の命によって建てられ、1930 年代に再建され、現在の複合施設は 1997 年に建てられました。ザイド・ブン・ハーリサの墓はジャアファルの墓と同じ敷地内にあり、アブドゥッラー・ブン・ラワーハの墓はその近くにあります。

墓参りは、来世を思い起こし、死者のために祈るためのスンナです。しかし学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が教えられた作法 ― 挨拶をし、かれらのために祈ること ― に従い、**墓に眠る人に何かを願い求めることなく**墓参りをするよう注意を促しています。

**参照：**

Wikipedia「Mausoleum of Ja'far ibn Abi Talib」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mausoleum_of_Ja%27far_ibn_Abi_Talib
Wikipedia「Mausoleum of Abdullah ibn Rawahah」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mausoleum_of_Abdullah_ibn_Rawahah

墓参りの作法は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が教えられました。**「信仰者とムスリムの住まいの人びとよ、あなたがたに平安あれ。わたしたちも、アッラーが望まれるなら、あなたがたに続くであろう。わたしはアッラーに、わたしたちとあなたがたの安寧を願う」**（『サヒーフ・ムスリム』975）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 

## ムウタの戦いの物語の出典

これまでの巻と同様に、本書のムウタの物語は、まず**真正なハディース**の上に組み立てられ、そのうえで、はっきりと区別した**スィーラ書の伝承**で補っています。

| 出来事 | 典拠 |
|---|---|
| 三人の指揮官の任命 | 『サヒーフ・ブハーリー』4261 |
| 体の前面に受けたジャアファルの傷 | 『サヒーフ・ブハーリー』4260、4261 |
| 「二つの翼を持つ者」という呼び名 | 『サヒーフ・ブハーリー』4264、3709 |
| 任命されずに旗を取ったハーリド | 『サヒーフ・ブハーリー』1246 |
| 折れた九本の剣 | 『サヒーフ・ブハーリー』4265、4266 |
| 届く前に告げられた知らせ | 『サヒーフ・ブハーリー』4262 |
| マダディーの男とサラブの話 | 『サヒーフ・ムスリム』1753；アブー・ダーウード 2719 |
| アッラーの使徒 ﷺ の悲しみ；泣き叫ぶ哀悼の禁止 | 『サヒーフ・ブハーリー』4263、1299 |
| ジャアファルの家族のための食事 | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998（ハサン） |
| 殺された使者；敵の人数；マアーンでの演説 | スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー） |
| イブン・ラワーハの詩；ハーリドの戦略；「クッラール」 | スィーラ書 |

本書は、イスラーイーリーヤート（ユダヤ・キリスト教由来の伝承）や明らかに捏造された伝承を**含めていません**。スィーラ書の伝承は、その位置づけを明記したうえで、歴史像を補うものとして示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# ザート・アッ＝サラースィルの遠征：ムウタの後

ムウタの戦いは、軍がマディーナに帰ったことで終わったわけではありませんでした。半島北部のアラブ諸部族 — 特にシャームの国境地帯に住み、ローマと同盟していたクダーア族 — は、いまや新しい目でムスリムを見ていました。そのうちの一部がマディーナを攻撃するために集結していると伝えられました。ムウタからおよそ一か月後、アッラーの使徒 ﷺ はかれらに向けて一つの部隊を送られました。これがザート・アッ＝サラースィルの遠征として知られるものです。

**スィーラの注：アムル・ブン・アル＝アースの部隊**

イブン・イスハーク、イブン・サアド、アル＝ワーキディーによれば、この遠征はヒジュラ8年ジュマーダー・アル＝アーヒラ月に行われました。アッラーの使徒 ﷺ は、わずか数か月前に入信したアムル・ブン・アル＝アースを、およそ三百人の指揮官に任じられました。ザート・アッ＝サラースィルという名は、ワーディー・アル＝クラーの向こう、ジュザーム族の地にあるアッ＝サルサルという泉に由来するとされます。

スィーラ書によれば、アムルが選ばれたのは、かれの父方の祖母がクダーア族の一つであるバリー族の出身で、その血縁がかれらの心を和らげると期待されたためでした。敵が多いことを知ったアムルは援軍を求め、アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフをおよそ二百人とともに送られました。その中にはアブー・バクルとウマル رضي الله عنهما も含まれていました。

この日付、人数、地名の詳細はスィーラ書の情報です。真正なのは、アムル・ブン・アル＝アースがザート・アッ＝サラースィルの軍の指揮官であったことです（『サヒーフ・ブハーリー』4358）。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』 — ザート・アッ＝サラースィルの遠征；イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ザート・アッ＝サラースィルの遠征の章。

## 誰が誰を率いるのか

アブー・ウバイダが到着すると、一つの問題が生じました。誰が礼拝を導き、部隊を率いるのか。スィーラ書によれば、アムルは、アブー・ウバイダは自分への援軍として来たのだから自分が指揮官だと言いました。温和なことで知られる教友アブー・ウバイダは、アッラーの使徒 ﷺ が互いに争わないよう命じられたと言って、それを受け入れました。こうしてアムルが礼拝を導き、その後ろにアブー・バクル、ウマル、アブー・ウバイダが立ったのです。

この話はスィーラ書の伝承ですが、その意味は、任命された指導者に従うことについての真正なハディースと一致しています。またそれは、ある任務の指揮は、その任務に最もふさわしい人に委ねられるということも教えています — たとえその後ろに、地位や入信の早さにおいてより優れた人びとが立っていたとしても。

## 「あなたが最も愛する人は誰ですか」

**ハディース：ザート・アッ＝サラースィルの後のアムルの問い**

アブー・ウスマーン・アン＝ナフディーは、アッラーの使徒 ﷺ がアムル・ブン・アル＝アースをザート・アッ＝サラースィルの軍の指揮官として遣わされたと伝えています。アムルは言いました。わたしは使徒のもとに行き、「人びとの中で、あなたが最も愛する人は誰ですか」と尋ねた。使徒は「アーイシャだ」と答えられた。わたしは「男性の中では？」と尋ねた。使徒は「その父だ」と答えられた。わたしは「その次は誰ですか」と尋ねた。使徒は「ウマルだ」と答えられた。そして使徒はさらに何人かの男性の名を挙げられた。わたしは、自分が最後に置かれるのではないかと恐れて黙ってしまった。

等級：真正（サヒーフ） — 『サヒーフ・ブハーリー』4358、ザート・アッ＝サラースィルの遠征の章；『サヒーフ・ブハーリー』3662 にも。

アムルは指揮官に任命されたばかりで、その下にはアブー・バクルとウマルが立っていました。自分には特別な地位があるという思いが心をよぎったのかもしれませ

ん。アッラーの使徒 ﷺ の答えは、すべてを正しい位置に置きました。一つの部隊を率いる任命は、アッラーの使徒 ﷺ の心における位置や、アッラーの御許での位置とは同じではないのです。アムルが、自分の気恥ずかしさも含めてこの話を自ら語ったという正直さは、ハディースを伝える教友たちの誠実さを示しています。

## 厳寒の夜のタヤンムム

**ハディース：「あなたがた自身を殺してはならない」**

アムル・ブン・アル＝アース رضى الله عنه は言いました。ザート・アッ＝サラースィルの戦いのとき、わたしはひどく寒い夜にジュヌブ（大汚れ）の状態になった。水を浴びれば死んでしまうのではないかと恐れた。そこでわたしはタヤンムムをし、仲間たちを率いてファジュルの礼拝をした。かれらがそのことを預言者 ﷺ に話すと、使徒は「アムルよ、あなたはジュヌブのまま仲間を率いて礼拝したのか」と尋ねられた。わたしは水を浴びられなかった理由を告げ、こう言った。わたしはアッラーがこう仰せになるのを聞きました。「あなたがた自身を殺してはならない。本当にアッラーは、あなたがたに慈悲深くあられる」（婦人章 4:29）。するとアッラーの使徒 ﷺ は笑われ、何も言われなかった。

等級：アルバーニーによれば真正（サヒーフ） — 『スナン・アビー・ダーウード』334、清浄の書。

アッラーの使徒 ﷺ が笑われ、黙っておられたことを、学者たちはタクリール — アムルのイジュティハード（独自の判断）が正しかったという承認 — とみなしています。このハディースは、ひどく冷たい水を使えば明らかな害が生じると恐れ、それを温める手段もない人はタヤンムムをしてよいという根拠になっています。またそれは、入信したばかりの教友がすでにクルアーンを理解し、それを用いてイジュティハードを行っていたことも示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：53 / 76

**スィーラの注：火を焚くことの禁止**

スィーラ書によれば、アムルは夜に火を焚くことを兵に禁じ、勝利したときも敵を追撃することを許しませんでした。アッラーの使徒 ﷺ に尋ねられると、かれは、敵に味方の人数の少なさを見られることを恐れ、また敵兵が待ち伏せのために隠れていることを恐れたのだと説明しました。アッラーの使徒 ﷺ はかれの計画をほめられました。

この話はスィーラ書や一部のハディース書に、議論のある伝承経路で伝えられています。真正なハディースとしてではなく、アムルの軍事的な賢明さを示す話として紹介しています。

## 教訓

ムウタの後、アッラーの使徒 ﷺ は北の国境を無防備なままにはされませんでした。最もふさわしい人が率いる部隊を送り、求められれば援軍を与え、地位は尊さの尺度ではないことを教えられました。イスラームはまた、人に能力以上の負担を課しません。命が危険にさらされる状況では、アッラーが用意された軽減（ルフサ）があるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## ハバトの部隊と海辺の大魚

同じ時期の遠征として一部のスィーラ学者が挙げるもう一つの話が、サイフ・アル＝バフル（海岸）の遠征、よりよく知られた名ではジャイシュ・アル＝ハバト ― 「ハバトの葉の軍」 ― です。この話は、それに加わったジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما によって、真正な伝承経路で伝えられています。

**ハディース：木の葉を食べた軍**

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言いました。預言者 ﷺ は、クライシュの隊商を見張るため、アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフの指揮のもとに三百人の騎乗兵を送られた。わたしたちは半月の間海辺にとどまり、ひどい飢えに襲われて、ハバトの木の葉を食べるほどだった。そのためこの部隊はジャイシュ・アル＝ハバトと名付けられた。やがて海が、アル＝アンバルと呼ばれる一頭の生き物をわたしたちのもとに打ち上げた。わたしたちは半月の間それを食べ、その脂を体に塗って、体は元の強さを取り戻した。

等級：真正（サヒーフ） ― 『サヒーフ・ブハーリー』4361、サイフ・アル＝バフルの遠征の章。

**ハディース：「アッラーがあなたがたのために出された糧を食べなさい」**

ジャービルからの別の伝承では、アブー・ウバイダがその生き物の骨を一本立てると、騎乗した者がその下を通り抜けたといいます。かれらがマディーナに帰り、預言者 ﷺ にそのことを話すと、使徒は言われました。「食べなさい。（それは）アッラーがあなたがたのために出された糧である。もし少しでも持っているなら、わたしたちにも食べさせなさい。」そこで何人かが少し差し上げると、使徒はそれを召し上がりました。

等級：真正（サヒーフ） ― 『サヒーフ・ブハーリー』4362。

**スィーラの注：この出来事はいつ起きたのか**

イブン・サアドと一部のスィーラ学者は、この遠征をヒジュラ 8 年ラジャブ月、すなわちムウタとザート・アッ＝サラースィルの後に置いています。しかしイブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、この部隊の目的 — クライシュの隊商の見張り — から見て、フダイビーヤの和約より前の出来事であると説明しています。和約の後、クライシュの隊商は安全で、妨げられることはなかったからです。

本書がここでこの話を取り上げるのは、一部のスィーラ書がムウタの後に置いているからであり、またその教訓がこの時期に送られた部隊と深く関わっているからです。正確な時期については意見が分かれています。

## アブー・ウバイダ：兵と共に飢えた指揮官

この話は、アブー・ウバイダが兵と苦しみを分かち合う指揮官であったことを示しています。ジャービルからの別の伝承では、部隊の食糧が集められて少しずつ分けられ、一人一日なつめやし一粒になったと伝えられています。指揮官は部下より多くは食べませんでした。だからこそアッラーの使徒 ﷺ は、アブー・ウバイダを「アミーン・アル＝ウンマ」— このウンマで最も信頼できる人 — と呼ばれたのです。

## 海からの糧

アッラーは仰せになります。その意味は、海の獲物とその食物は、あなたがたと旅する者たちのための糧として、あなたがたに許されている、ということです（食卓章 5:96）。アッラーの使徒 ﷺ も海についてこう言われました。「その水は清浄であり、その死んだものは合法である」（『スナン・アビー・ダーウード』83、アルバーニーによれば真正；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』69 にも）。

教友たちは、その生き物が死んだ状態で見つかったため、はじめはためらいました。アブー・ウバイダも最初は「死肉だ」と言いましたが、その後、自分たちはアッラーの使徒 ﷺ の使いであり、やむを得ない状況にあるとイジュティハードしました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 

帰還すると、アッラーの使徒 ﷺ はそれを許されただけでなく、ご自身でも召し上がりました。これは、それがやむを得ない場合だけでなく、無条件に合法であることを示しています。大多数の学者は、死んだ海の生き物は合法であるとしています。ハナフィー派には、浮いて死んだ魚について独自の細かな見解があります。

## 教訓

木の葉を食べるほどの飢えも、この部隊の服従を揺るがせませんでした。そしてアッラーは、思いもよらない所から糧を下されました。信頼できる指揮官は苦しみを分かち合い、アッラーが与えられた糧は皆で分かち合われました — マディーナのアッラーの使徒 ﷺ の皿に届くまで。

## ムウタの戦いの人物たち

これまでの章では、三人の指揮官とハーリド・ブン・アル＝ワリードの話を詳しく述べました。下の表は、ムウタの物語とその前後の出来事に登場する他の人物を、その部族と情報源とともにまとめたものです。真正なハディースに名前が出てくる人物と、スィーラ書にだけ名前が出てくる人物とを区別しています。

| 人物 | 部族 | 役割 | 典拠 |
|---|---|---|---|
| ザイド・ブン・ハーリサ | カルブ族（クダーア）；アッラーの使徒のマウラー ﷺ | 第一の指揮官；殉教 | 『サヒーフ・ブハーリー』4261 |
| ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ | クライシュ族ハーシム家；いとこ ― アッラーの使徒 ﷺ | 第二の指揮官；「二つの翼を持つ者」 | 『サヒーフ・ブハーリー』4261、4264 |
| アブドゥッラー・ブン・ラワーハ | ハズラジュ族（アンサール） | 第三の指揮官；詩人 | 『サヒーフ・ブハーリー』4261 |
| ハーリド・ブン・アル＝ワリード | クライシュ族マフズーム家 | 任命されずに旗を取った；「アッラーの剣」 | 『サヒーフ・ブハーリー』4262、4265 |
| サービト・ブン・アクラム | バリー族（クダーア）；アンサールのアジュラーン家の同盟者 | しばらく旗を持ち、指揮官を選ぶよう呼びかけた | スィーラ書（イブン・イスハーク） |
| アブドゥッラー・ブン・ウマル | クライシュ族、アディー家 | 戦いに参加；ジャアファルの傷を数えた | 『サヒーフ・ブハーリー』4260、4261 |
| アウフ・ブン・マーリク・アル＝アシュジャイー | アシュジャウ族（ガタファーン） | マダディーの男とサラブの話の目撃者 | 『サヒーフ・ムスリム』1753；アブー・ダーウード 2719 |
| マダディーの男 | ヒムヤル（イエメン） | ローマの騎兵を討ち、サラブを求めた | 『サヒーフ・ムスリム』1753 |

| 人物 | 部族 | 役割 | 典拠 |
|---|---|---|---|
| アスマー・ビント・ウマイス | ハスアム族 | ジャアファルの妻；夫の殉教の知らせを受けた | 伝記書；アブー・ダーウード 4192 |
| アブドゥッラー・ブン・ジャアファル | クライシュ族、ハーシム家 | ジャアファルの息子；弔問の話の伝承者 | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；アブー・ダーウード 4192 |
| ウサーマ・ブン・ザイド | カルブ族（クダーア） | ザイドの息子；のちにシャームの地への指揮官に任命 | 『サヒーフ・ブハーリー』3730、4469 |
| アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディー | アズド族 | 殺されたアッラーの使徒 ﷺ の使者 | スィーラ書（イブン・サアド、アル＝ワーキディー） |
| シュラフビール・ブン・アムル・アル＝ガッサーニー | ガッサーン族 | 使者を殺した、ローマ配下のアラブ人官吏 | スィーラ書 |
| クトバ・ブン・カターダ・アル＝ウズリー | ウズラ族（クダーア） | 右翼を指揮；ローマのアラブ同盟軍の長マーリク・ブン・ザーフィラを討った | スィーラ書（イブン・イスハーク） |
| アムル・ブン・アル＝アース | クライシュ、バヌー・サフム | ムウタの一か月後のザート・アッ＝サラースィル遠征の指揮官 | 『サヒーフ・ブハーリー』4358 |
| アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ | クライシュ族アル＝ハーリス・ブン・フィフル家 | ザート・アッ＝サラースィルに援軍を率いた；ジャイシュ・アル＝ハバトの指揮官 | 『サヒーフ・ブハーリー』4361；スィーラ書 |

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 興味深い親族関係

これらの人物の間には、注目に値する親族関係がいくつかあります。ジャアファルはアリー・ブン・アビー・ターリブの兄で、二人ともアッラーの使徒 ﷺ のいとこです。かれらの父アブー・ターリブが使徒のおじだからです。ザイド・ブン・ハーリサは、養子縁組が廃止される前のアッラーの使徒 ﷺ の養子であり、ウサーマはその息子です。ハーリド・ブン・アル＝ワリードの母ルバーバ・アッ＝スグラー・ビント・アル＝ハーリスは、マイムーナ・ビント・アル＝ハーリスの姉妹です。したがって、カダーのウムラのときにアッラーの使徒 ﷺ と結婚したマイムーナは、ハーリドの母方のおばにあたります。

アスマー・ビント・ウマイスは、マイムーナの異父姉妹（同じ母を持つ姉妹）です。ジャアファルの殉教後、アスマーはアブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنه と結婚し、アブー・バクルの死後はアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه と結婚しました — イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ』などの伝記書による。

**スィーラの注：ムウタの殉教者たち**

スィーラ書は、ムウタでのムスリムの殉教者の数をおよそ八人から十二人としています — ムハージルーンから四人、残りはアンサールです。イブン・ヒシャームはその名を列挙しており、その中にはザイド・ブン・ハーリサ、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハ、マスウード・ブン・アル＝アスワド、ワハブ・ブン・サアド・ブン・アビー・サルフがいます。完全な名簿は資料によって異なります。

敵軍の規模に比べてこの殉教者の数が少ないことは、ハーリドが軍を救うことに成功したという歴史家たちの根拠の一つとなっています。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』 — ムウタの殉教者の章；Wikipedia「Battle of Mu'tah」。

## 教訓

ムウタでは、カルブ族出身の元奴隷、ハーシム家の貴人、アンサールの詩人、入信したばかりのマフズーム家の武将、そして剣一本しか持たないイエメンからのマダディーの男が、肩を並べて立ちました。イスラームはかれらを一本の旗のもとに一つにしたのです。かれらの尊さは部族にではなく、信仰と犠牲にありました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## ムウタとその後の遠征から導かれる法規定

ムウタの戦いとその後に送られた部隊は、学者たちがハディース書や法学書で論じてきた多くの法規定を残しました。下の表は、その中で最も重要なものを、根拠と、本書でそれを論じている章とともにまとめたものです。

| 規定 | 根拠 | 章 |
|---|---|---|
| 指導者は条件付きで後継者を定めることができる | 『サヒーフ・ブハーリー』4261 | 2 |
| 任命された指導者がいないときは、集団が公益のために指導者を選ぶことができる | 『サヒーフ・ブハーリー』1246 | 12 |
| 戦術としての撤退は戦場からの逃亡ではない | 戦利品章 8:15–16 | 20、27 |
| サラブ（討ち取った敵の持ち物）はそれを討った者の権利であり、指導者は尊重されねばならない | 『サヒーフ・ムスリム』1753 | 15 |
| 普通の方法で死を知らせること（ナアイ）は許される；泣き叫ぶ哀悼（ニヤーハ）は禁じられる | 『サヒーフ・ブハーリー』1246、4263 | 14、16 |
| 死者の家族のために食事を用意することが推奨される | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；アブー・ダーウード 3132 | 17 |
| 夫以外の者のための服喪は三日を超えない | 『スナン・アビー・ダーウード』4192；『サヒーフ・ブハーリー』1280 | 17 |
| 命を脅かすほどの極寒のためのタヤンムム | 『スナン・アビー・ダーウード』334；婦人章 4:29 | 24 |
| 死んだ海の生き物は合法である | 食卓章 5:96；『サヒーフ・ブハーリー』4362；アブー・ダーウード 83 | 25 |

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

| 規定 | 根拠 | 章 |
|---|---|---|
| 困難なときに指揮官が兵と食糧を分かち合う | 『サヒーフ・ブハーリー』4361 とその伝承 | 25 |

## 退却か、逃亡か

アッラーは仰せになります。その意味は、信仰する者たちよ、あなたがたが進撃してくる不信者たちと出会ったときは、かれらに背を向けてはならない。その日に背を向ける者は ― 戦術のため、あるいは他の部隊に合流するためでない限り ― アッラーの怒りを受けて帰る、ということです（戦利品章 8:15–16）。

イブン・カスィールはその注釈で、この節の例外には、隊列を立て直すため、あるいは他のムスリム部隊に合流するために退く者が含まれると説明しています。これこそがハーリドがムウタで行ったことです。かれは逃げたのではなく、軍を救い、ムスリム軍の拠点であるマディーナに連れ帰ったのです。「アッラーはかれらに勝利を与えられた」（『サヒーフ・ブハーリー』4262）というアッラーの使徒 ﷺ の言葉は、かれらが逃げたといういかなる非難も退けています。

## 許されるナアイと禁じられるナアイ

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、説教壇の上でザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハの死を人びとに告げられました。イマーム・ブハーリーはこのハディースを、葬儀の書の、死者の家族に訃報を伝える人についての章に置いています（第 1246 番）。学者たちは、葬儀の礼拝、弔問、祈りのために死を知らせることは許されると説明しています。禁じられているのは、ジャーヒリーヤ式のナアイ ― 叫び声や泣き叫ぶ哀悼、死者を誇ることを伴って死を触れ回ること ― です。

上の表は一般的な要約です。各規定の詳細と学派間の意見の違いについては、イブン・ハジャルの『ファトフ・アル＝バーリー』やアン＝ナワウィーの『サヒーフ・ムスリム注釈』などのハディース注釈書を参照してください。

## 教訓

スィーラは、ただ思い出すための物語ではなく、実践するための法の源でもあります。遠くシャームの地で起きた一つの戦いが、指導、戦争、弔問、清め、食べ物についての指針を生み出し、わたしたちは今日までそれを実践しているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 年表：ムウタからマッカ征服へ

下の表は、ムウタの戦い前後の出来事を時系列に並べたものです。これらの日付の多くはスィーラ書によるおおよそのものであり、一部には異論があります。

| 時期（おおよそ） | 出来事 | 典拠 |
|---|---|---|
| ヒジュラ 8 年初め | ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アムル・ブン・アル＝アース、ウスマーン・ブン・タルハが入信 | スィーラ書；『サヒーフ・ムスリム』121（アムルの入信） |
| ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月以前 | アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディーがシュラフビール・アル＝ガッサーニーに殺される | スィーラ書（イブン・サアド） |
| ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 | 三千人の軍がマディーナを出発；三人の指揮官を任命 | 『サヒーフ・ブハーリー』4261；スィーラ書 |
| ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 | マアーンでの二晩の協議 | スィーラ書（イブン・イスハーク） |
| ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月（西暦 629 年 9 月ごろ） | ムウタでの戦い；三人の指揮官が殉教；ハーリドが旗を取る | 『サヒーフ・ブハーリー』1246、4262 |
| 同じ日 | アッラーの使徒 ﷺ が、知らせが届く前にマディーナでその出来事を告げる | 『サヒーフ・ブハーリー』4262 |
| 知らせが届いた後 | ジャアファルの家族のための食事；泣き叫ぶ哀悼の禁止 | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；『サヒーフ・ブハーリー』4263 |
| 三日後 | アッラーの使徒 ﷺ がジャアファルの子どもたちを訪ね、頭を剃らせる | 『スナン・アビー・ダーウード』4192 |

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

| 時期（おおよそ） | 出来事 | 典拠 |
|---|---|---|
| マディーナへの帰還 | 一部の人びとが軍を「フッラール（逃げた者たち）」と呼ぶ；アッラーの使徒 ﷺ はかれらを「クッラール（攻め返す者たち）」と呼ぶ | スィーラ書（伝承経路に疑義あり） |
| ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝アーヒラ月 | アムル・ブン・アル＝アース率いるザート・アッ＝サラースィルの遠征 | 『サヒーフ・ブハーリー』4358；スィーラ書 |
| ヒジュラ 8 年ラジャブ月（異説あり） | イブン・サアドによる、アブー・ウバイダ率いるジャイシュ・アル＝ハバト | 『サヒーフ・ブハーリー』4361；『ファトフ・アル＝バーリー』 |
| ヒジュラ 8 年シャアバーン月 | クライシュの同盟者バクル族がフザーア族を襲う ― フダイビーヤの和約が破られる | スィーラ書（第 20 巻） |
| ヒジュラ 8 年ラマダーン月 | マッカ征服 | 第 20 巻・第 21 巻 |
| ヒジュラ 11 年サファル月 | ウサーマ・ブン・ザイドがアル＝バルカーへの軍の指揮官に任命される | 『サヒーフ・ブハーリー』4469；スィーラ書 |
| ヒジュラ 15 年（西暦 636 年） | ヤルムークの戦い；シャームが開かれる ― ハーリドは主要な指揮官の一人 | 一般の歴史 |

## 教訓

この年表は、ヒジュラ 8 年がいかに出来事に満ちていたかを示しています。一年足らずの間に、ムスリムはローマと向き合い、北へいくつもの部隊を送り、そしてマッカを開きました。ムウタは終わりではなく、アラビア半島とシャームの地における大きな変化の始まりだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | 

# ムウタの戦いに関するよくある質問

## 1. ムウタはどこにありますか？

ムウタは死海の東の高原にある町で、今日のヨルダンのカラク県にあります。隊商の道でマディーナからおよそ千キロメートルです（第 6 章と第 22 章；Wikipedia「Mu'tah」）。

## 2. アッラーの使徒ﷺが参加されなかったのに、なぜ「ガズワ（遠征）」と呼ばれるのですか？

通常、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が参加された戦いはガズワと呼ばれ、使徒が参加されなかった部隊はサリーヤまたはバアスと呼ばれます。しかしイマーム・ブハーリーは、部隊の大きさと出来事の重要性から、その章を「ムウタの戦い（ガズワ）」と名付けました。スィーラ学者たちは両方の用語を使っています。

## 3. 両軍の兵力はどれほどでしたか？

スィーラ書によれば、ムスリム軍はおよそ三千人でした。敵の数は、アル＝ワーキディーは 10 万、イブン・イスハークは 20 万としています。これらの数は連続した伝承経路のないスィーラ書の伝承であり、多くの現代の歴史家は大きすぎると考えています。確かなのは、ムスリム軍がはるかに小さかったということです（第 7 章）。

## 4. 殉教者は何人でしたか？

スィーラ書は、三人の指揮官を含めておよそ八人から十二人としています。この少なさは、ハーリドが軍を救うことに成功したことを示しています（第 26 章）。

## 5. なぜアッラーの使徒ﷺは三人の指揮官を一度に任命されたのですか？

指揮官が倒れても部隊が混乱しないようにするためです。このハディースは、条件付きの任命が許されることの根拠でもあります（『サヒーフ・ブハーリー』4261；第 2 章）。

## 6. なぜハーリドはアッラーの使徒ﷺに任命されなかったのですか？

ハーリドは入信してまだ数か月でした。かれは三人の指揮官が倒れた後に戦場で兵たちに選ばれ、アッラーの使徒 ﷺ はかれを「アッラーの剣の一つ」と呼ぶことでその選択を認められました（『サヒーフ・ブハーリー』4262；第 12 章と第 14 章）。

## 7. ジャアファルの手が切り落とされた話は真正ですか？

ジャアファルが右手で旗を持ち、それが切り落とされると左手で持ったという詳細は、スィーラ書の伝承です。真正なのは、かれの傷がすべて体の前面にあったこと（『サヒーフ・ブハーリー』4260）と、イブン・ウマルが用いた「二つの翼を持つ者」という呼び名（『サヒーフ・ブハーリー』4264）です（第 9 章と第 10 章）。

## 8. ムウタは敗北だったのですか？

アッラーの使徒 ﷺ は「ついにアッラーはかれらに勝利を与えられた」と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4262）。歴史家たちは、それが勝利だったのか、成功した撤退だったのか、引き分けだったのかについて意見が分かれています。一部のビザンツの資料はローマの勝利とみなし、その指揮官をテオドロスとしています（第 20 章；Wikipedia「Battle of Mu’tah」）。

## 9. 戦場から退くことは大罪ですか？

戦場から逃げることは大罪ですが、アッラーは戦術のため、あるいは他の部隊に合流するために退く者を除外されています（戦利品章 8:15–16；第 27 章）。

## 10. 人の死を知らせてもよいのですか？

アッラーの使徒 ﷺ がムウタの殉教者たちの死を告げられたように、葬儀の礼拝、弔問、祈りのためであれば許されます。禁じられているのは、泣き叫ぶ哀悼とジャーヒリーヤ式のやり方です（『サヒーフ・ブハーリー』1246、4263；第 27 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 11. 水が冷たすぎる場合、タヤンムムをしてもよいのですか？

アムル・ブン・アル＝アースのハディースは、冷たい水を使えば本当に害があると恐れ、それを温める手段もない人はタヤンムムをしてよいという根拠です（『スナン・アビー・ダーウード』334；第 24 章）。その条件の詳細は法学書で論じられており、単に面倒だとか不快だというだけでは当てはまりません。

## 12. ムウタとシャームの開放にはどんな関係がありますか？

ムウタはムスリム軍とローマとの最初の衝突でした。およそ三年後、アッラーの使徒 ﷺ はウサーマをアル＝バルカーへの指揮官に任じられ（第 21 章）、その数年後には、ハーリド自身がシャームの地を開いたヤルムークの戦いの主要な指揮官の一人となりました。

## 教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして歴史家の見解を区別することを思い出させてくれます。そうすることで、わたしたちはムウタから確かな教訓を得、意見が分かれる事柄には寛容な心で向き合うことができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 教訓と結び

ムウタの戦いは、**最後の一滴の血までの忠誠**の物語です。三人の指揮官は背を向けることなく一人また一人と倒れ、入信したばかりの一人のムスリムが、軍を救う「アッラーの剣」となりました。

| 教訓 | ムウタの戦いから |
|---|---|
| 綿密な計画 | 順番に任命された三人の指揮官 |
| イスラームにおける平等 | 元奴隷が有力者たちを率いた |
| 勇気と不動 | ジャアファルの傷はすべて前面にあった |
| 自分自身とのジハード | イブン・ラワーハは自分を説得して前進した |
| 善へと向けられた才能 | ハーリド：ウフドからムウタへ |
| 指導者を尊重すること | 「あなたがたはわたしの指揮官たちを放っておくつもりか」 |
| 泣き叫ばずに悲しむ | アッラーの使徒 ﷺ の涙；ニヤーハの禁止 |
| 災難に遭った家族を支える | ジャアファルの家族のための食事；孤児たち |

### わたしたちの生活の中のムウタ

わたしたちは戦場で旗を持つことはないかもしれません。しかし、わたしたち一人ひとりは、家庭で、職場で、社会で、**預かりもの**を手にしています。ムウタは、それをしっかりと握り、時が来ればよりふさわしい人に委ね、試練が来ても**背を向けない**ことを教えてくれます。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 20 巻**へと続きます — **マッカ征服**の始まりです。クライシュがいかにしてフダイビーヤの和約を破り、アッラーの使徒 ﷺ がいかにしてアラビア半島がかつて見たことのない最大の軍を整えられたのかを語ります。アッラーこそが最もよく知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# 参考文献

## クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:154–157、2:249；イムラーン家章 3:169–171；戦利品章 8:45–46；マルヤム章 19:71；部族連合章 33:23、33:37）。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/169

## ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1246、1299、2699、2817、3015、3493、3708、3709、3730、4260、4261、4262、4263、4264、4265、4266、6114。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』975、1731、1753、1887。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998、3763；『スナン・アビー・ダーウード』2573、2719、3132、4192。https://sunnah.com

## スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ムウタの戦いの章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— ムウタの戦い；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 遠征の書、ムウタの戦いの章；『アル＝イサーバ（教友識別の書）』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— ムウタの戦いの章。

## 一般の歴史

Wikipedia「Battle of Mu’tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Mu%27tah

Wikipedia「Zayd ibn Haritha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha

Wikipedia「Ja'far ibn Abi Talib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ja%27far_ibn_Abi_Talib

Wikipedia「Abd Allah ibn Rawaha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_Allah_ibn_Rawaha

Wikipedia「Khalid ibn al-Walid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khalid_ibn_al-Walid

Wikipedia「Mausoleum of Ja'far ibn Abi Talib」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mausoleum_of_Ja%27far_ibn_Abi_Talib

## ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4358（ザート・アッ＝サラースィルの指揮官アムル・ブン・アル＝アース）。https://sunnah.com/bukhari:4358

『サヒーフ・ブハーリー』3662（アッラーの使徒 ﷺ が最も愛した人は誰か）。
https://sunnah.com/bukhari:3662

『スナン・アビー・ダーウード』334（寒い夜のアムルのタヤンムム）。
https://hadithunlocked.com/abudawud:334

『サヒーフ・ブハーリー』4361（ジャイシュ・アル＝ハバト）。
https://sunnah.com/bukhari:4361

『サヒーフ・ブハーリー』4362（「アッラーがあなたがたのために出された糧を食べなさい」）。https://sunnah.com/bukhari:4362

『スナン・アビー・ダーウード』83（「その水は清浄であり、その死んだものは合法である」）。https://sunnah.com/abudawud:83

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』69（海：その水は清浄である）。
https://sunnah.com/tirmidhi:69

『サヒーフ・ブハーリー』1280（服喪の期間）。https://sunnah.com/bukhari:1280

Wikipedia「Raid of Dhat al-Salasil」。https://en.wikipedia.org/wiki/Raid_of_Dhat_al-Salasil

Wikipedia「Mu'tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mu%27tah

## 支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

**雌牛章 2:261**

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

**サバア章 34:39**

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

**ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番**

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

**訳：**

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

**ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番**

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

**訳：**

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

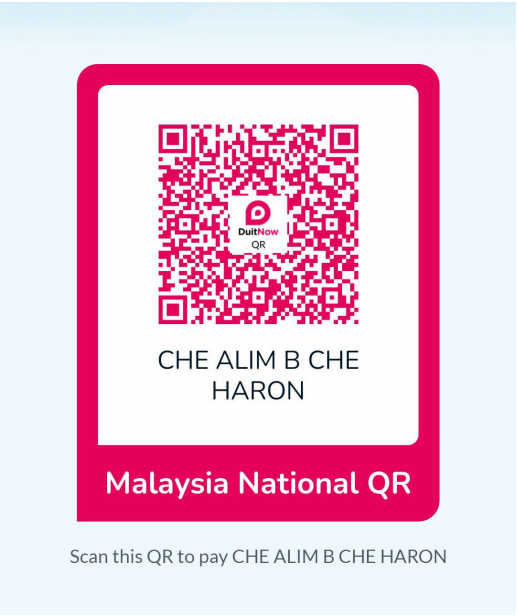
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

## ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。




海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience